

地域活性化伝道師（敬称略・五十音順）

平成19年4月15日現在

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
1	相澤 徹	岩手県総合政策室		地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
2	会田 和子	株式会社いわきテレワークセンター	代表取締役	地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
3	青木 勉	農林水産省近畿農政局消費・安全部	部長		
4	秋山 三枝子	NPO法人くびき野NPOサポートセンター	専務理事	・新潟県くびき野地域を中心に、市民団体相互の情報交換や連携を図るとともに、NPO法人設立を目指す団体・個人を支援。 ・平成11年7月より地元紙「上越タイムス」において、市民への各団体の活動紹介や情報提供等を実施中。 ・平成12年から「くびき野市民活動フェスタ」を立ち上げ、市民への団体PRの場の提供と市民の市民活動に対する理解の向上、実行委員会を通じた各団体の人材育成を実践。 ・平成17年には「NPO全国フォーラム」を上越市で開催。	団体ネットワーク 協働
5	朝廣 佳子	(株)読売奈良ライフ	代表取締役兼編集長	・「奈良らしさ」を追求し『なら燈花会』を成功に導いたカリスマ ・奈良公園付近一帯を幻想的なろうそくの灯りを用いて演出する「なら燈花会」の第1回目から実行組織リーダーを務めている中心的人物。このイベントをボランティアの協力による市民主体のイベントとして地域に根付かせるとともに、多くの来訪者呼び寄せることができる「奈良の夏の一大イベント」として成長させることに貢献し、第6回目となる2004年(平成16年)は期間中(11日間)に70万人もの誘客に成功している。	観光振興
6	天谷 光治	(株)平成大野屋	代表取締役社長	・「環境保全と人づくり」歴史に学んだまちづくりのカリスマ ・城下町の歴史と文化を生かした「まちなか観光」を推進。全国の大野姓の人々によるさまざまな交流や情報の発信を行う「平成大野屋事業」を展開し、大野市の全国的な知名度アップに取り組んでいる。また、地域住民の自主的なまちづくり活動の契機となる「越前大野平成塾」や「明倫館事業」などの人づくり活動やブナ林の保全施策等の行政環境保全活動にも取り組んでいる。	観光振興
7	綾野 輝也	(株)黒船	代表取締役社長	・「蔵」を守り活かしたまちづくりのカリスマ ・江刺のまちに数多く眠っていた『蔵』に着目し、長浜の黒壁によるまちづくりの先進事例をうまく取り入れながら、『蔵』を守り活かすことによって、寂れていた江刺の中心市街地を活性化させた。	観光振興
8	有村 佳子	(株)指宿ロイヤルホテル	代表取締役	・「温泉・食」などオンリーワンの地域資源を生かした観光のカリスマ ・鹿児島県の主要観光地である指宿で、浸食傾向にある「砂浜」の再生に、自らが砂浜をつくる会の会長となり、地域一体となって取り組むとともに、天然砂むし温泉や地元産の豊かな食材など、鹿児島が誇るオンリーワンの地域資源を活用し、それに運動を組み合わせた、「食・運動」をキーワードとする新たな観光振興の展開を図ろうと日々奔走している。	観光振興
9	生重 幸恵	NPOスクール・アドバイザー・ネットワーク 杉並区学校教育コーディネーター 東京都生涯学習審議会委員	理事長	中学校のPTA会長を務めながら、子どもたちの体験学習のサポートといった学校を支援する様々な取組を行っていた。杉並区教育委員会から「学校教育コーディネーター」の委託を受けたことを機にNPOを設立。「総合的な学習の時間」のコーディネートや地域住民が学校支援活動に支援・協力する「学校サポーター」を育成している。	NPO活動 学校教育支援 地域振興 人材育成
10	石河 智舒	「ゆずの里かおり村」	会長	・「地域特産物(ゆず)を核にした都市農村交流による地域再生のカリスマ」 ・過疎化、高齢化が進む地域において、「ゆず」を地域特産物とした地域興しを提案し、「ゆずの木オーナー」の立ち上げや「ゆず祭り」等のイベントの開催により、16戸の集落に年間2万人の観光客を集めるなど、都市農村交流推進の立役者として地域活性化に大きく貢献している。	観光振興
11	石村 和清	財団法人浜松地域テクノポリス推進機構	理事長	産学官連携に基づく、地域の活性化を推進。 ・平成18年度まで、文部科学省「知的クラスター創成事業」の浜松地域の知的クラスター本部長を兼務し、現在、強力なリーダーシップを発揮してクラスター創成戦略や数値目標を掲げて事業を推進している。 ・第4回産学官連携功労者表彰(平成18年度)において、文部科学大臣賞を受賞。	産業育成 人材育成 分野横断的支援
12	伊津田 崇	(株)アイレック	代表取締役	中心市街地サポートマネージャーとして、近畿管内の中心市街地活性化協議会等に対し、活性化に資する各種アドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
13	井手 修身	アイデアパートナーズ(株)	代表取締役社長	㈱リクルートにて、全国の地域活性化事業を数多く手がける。2004年、九州じやらん「観光会議きゆうしゅう」編集長。2006年1月より「人材×マーケティング」で観光・集客事業の再生を行う専門集団、アイデア(IDEA)パートナーズ(株)として事業を開始。現在、長崎県小浜温泉の旅館をはじめとする旅館事業再生や地域再生を進行中。九州の人材育成「アイデア塾」を主宰。	地域中小企業サポーター
14	伊藤 孝司	(有)フラワーランドかみふらの	代表取締役社長	・『大規模農業と観光を連動させたカリスマ』 ・花を中心とした大規模観光農場「フラワーランドかみふらの」を経営し、北海道ならではの広大な花畑で多くの観光客を集め、また農業体験や農産物加工販売・生産直売などの取り組みを通じて、大規模農業と観光を連動させた観光地づくりを推進している。	観光振興

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
15	井上 重義	日本玩具博物館	館長	・郷土玩具の伝承文化を地域・観光振興に結びつけたカリスマ ・郷土玩具や郷土人形といった子どもや女性の伝承・伝統文化の評価を高めるため、個人でユニークな玩具博物館を設立し、国内外から集客するとともに、日本の伝統的文化である風あげ祭りや女性の伝統手芸である「ちりめん細工」の復興活動を通じて地域の産業振興にも尽力している。	観光振興
16	井上 弘司	飯田市	産業経済部 担当 企画幹	・「ワーキングホリデー等多様なアイデアを取り入れた「都市農村交流」のカリスマ」 ・他地域に先駆けて「無償ボランティアでのワーキングホリデー」を企画し、農作業の手伝いのお礼に農家の生活を教えるという「心と心の交流」をセールスポイントとすることにより、本当の農家の家族のように素朴で温かな田舎の生活が体験できるということなどで好評を博すなど、農業を素材とする新しい観光の形を示した。	観光振興
17	今井 輝光	「海の学校」	代表	・「漁村の持つ癒し力を活用した都市と漁村との交流カリスマ」 ・豊かな漁業資源と自然環境を活用して、これまで漁業と農業しかなかった村に、体験漁業や海洋スポーツと滞在を組み合わせた「海の学校」を開校し、マリビジネスという新しいタイプの産業を創出、地域の人々が中心の活動を展開し、離島地域の活性化に大きく貢献している。	観光振興
18	岩淵 明	岩手大学工学部	教授	岩手大学は地域貢献を大学の柱としており、それを支えるINS(岩手ネットワークシステム)は岩手県の産学官連携組織として地域振興に勤めている。特に工学部系の先生を中心に様々なプロジェクト研究や人材育成に努めている。	産学官連携 地域振興 産業振興
19	上坂 卓雄	出石城下町を活かす会	元会長	・「町民主体の町づくり仲間を集めたカリスマ」 ・昔ながらの城下町の雰囲気を残すことを目的とする「出石城下町を活かす会」を設立し、住民主体の町づくり意識を高揚させた。また、町並みの保存活動とともに、伝統的な「皿そば」のPR活動により、観光地として認知度の低かった人口1万人の町に年間100万人という観光客が訪れるまでに成長させ、地域の活性化に貢献した。	観光振興
20	上地 敏夫	多幸山(株)	代表取締役社長	・「伝統琉球民家を観光施設として蘇生させたカリスマ三兄弟」 ・近代化が進むなか、建て替えられようとしていた沖縄の伝統的民家7棟を恩納村に移築。琉球村として生活感のある古き良き風景を再現した。施設では地域のお年寄りを多く採用し、伝統行事を披露しているほか、各民家では染織や陶芸、三線などの教室を開いて、多くの人々が琉球文化の真髄を身近に体験できる機会を提供している。琉球を愛し、体感できる形で琉球文化を観光施設と一体化することに成功し、琉球文化の紹介と継承に貢献している。	観光振興
21	内海 麻利	駒澤大学法学部 政治学科	助教授	地域における都市・まちづくりに関する制度を中心に研究。自治体を中心に制度制定及び運営にかかわる審議会・委員会の委員を務める。	都市・地域計画 都市政策 地方行政
22	打越 綾子	成城大学法学部	行政学・地方自治論 担当助教授 (H19.4.1付准教授)	内閣府委託事業「わがまち元気」サイトにて自治体と協働で地域活性化に取り組む地域の現場をレポートしている。また、動物に関わる行政に関心を持ち、愛玩動物をめぐる問題や野生動物の保護や農林業被害問題について、各地の現場に取材にいき、行政学・地方自治論の観点から議論を提供している。	農産漁村活性化 観光振興 動物愛護 野生鳥獣保護管理 分野横断的課題
23	江戸川 泰路	東京農工大学 (新日本監査法人 産学連携推進室 公認会計士)	客員助教授	・大学の知的財産を活用した事業化支援、ベンチャー企業の財務・経営・上場アドバイス、有限責任事業組合(LLP)の創設・運営支援など大学やベンチャー企業向けのアドバイザー業務を多数実施。 ・経済産業省「大学発ベンチャー企業に関する調査」研究会委員などを多数歴任。	産学育成 社会基盤整備
24	大江 守之	慶應義塾大学総合政策学部(元国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部長)	教授	・団塊世代についての有識者で、人口・家族変動論、都市・住宅政策論が専門。 ・横浜での団塊世代の地域回帰の仕組みづくり、米沢の高齢者自立支援の取組、藤沢の高齢者グループリビングの取組に参画。	少子高齢・人口減少 社会 団塊世代 協働 コミュニティケア 高齢者居住
25	大住 莊四郎	関東学院大学経済学部	教授	・都市行政経営モデルを愛知県瀬戸市、大阪市、千葉県松戸市などのケースづくりを通じて導出。 ・都市行政経営における学習する組織の実践アプローチの棚卸し。	エンパワーメント型 経営 戦略的都市経営 学習する組織
26	大田垣 義夫	有隣まちづくり委員会(京都市) 有隣自治連合会 有隣社会福祉協議会 有隣シルバークラブ連合会 五条少年補導委員会	会長 会長 副会長 副会長 副会長	・子育てサロン(就学前の子どもとその親が自由に集まれる場所の提供)を開始し、読み聞かせ、人形劇、高齢者との交流餅つきなどを実施。 ・マンション住民の地域参加を促進する事業として、マンションの子どもたちのための地蔵盆、地震フォーラム(マンションで阪神淡路地震を被災した方の体験談)等を実施。 ・シルバークラブ会員のサークル～マージャン、フラダンス等。 ・少年補導委員会の「子どもまつり」に端を発する「有隣まつり」を20数年継続。	住民参加 少子・高齢化 教育・青少年対策 安全・安心
27	大滝 昭徳	大和市渋谷西市民 自治区事務局	事務長	・大和市が進めている新たな地域自治の仕組み「市民自治区」に地域ぐるみで取り組み、運営協議会を中心に地域課題の解決を目指して、安全・安心パトロール、環境美化、福祉・健康・食育等活動を実施。	市民自治区 地域活動 安全・安心 環境美化 福祉・健康・食育 団塊世代
28	大西 隆	東京大学先端科学技術研究センター	都市環境システム 分野教授	大都市圏の計画制度、計画課題分析、実証分析など大都市圏の計画に関する種々の観点からの研究を実施。最近では、特に大都市圏の成長管理、安定成長下での大都市圏計画制度のあり方と計画課題について焦点を当て、起業家創出と地域産業活性化に向けた支援活動を実施。	地域計画 地域活性化 成長管理
29	大西 雅之	(株)阿寒グランドホテル(あかん遊久の里・鶴雅)	代表取締役社長	・「無私厚情による人材再生のカリスマ」 ・全従業員による接客体制づくりなど顧客本位の旅館経営を実践するとともに、「無私無私」で阿寒湖温泉の再生に取り組んでいる。また、道東各観光地の連携に奔走し、バス交通やイベント実施の相互調整や情報交換の場を設けるなど、地域の戦略的取り組みを主導した。	観光振興
30	大宮 登	高崎経済大学地域政策学部	教授/学部長	・高崎経済大学地域政策学部長として、多くの地域再生プロジェクトに参画。文部科学省地域づくり支援アドバイザー。若者社会活動支援NPO法人DNA主宰。 ・「地域づくりは人づくり」をテーマに、地方分権時代の地域リーダーとなる人材育成を目指し教育・研究・地域貢献に携わっている。 ・地域政策を基礎に、組織における実務的な能力開発や自己啓発、そして地域に根ざした住民主体の参画型地域づくりを研究。	地域づくり 人材育成 住民参加 生涯学習 少子高齢化 地域自治 観光振興 コミュニティ再生

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
31	岡崎 英人	社団法人 首都圏産業活性化協会 (TAMA協会)	事務局長	地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
32	岡田 昭人	(社)コミュニティネットワーク協会 早稲田大学都市・地域研究所	常務理事 客員研究員	・高齢者の地域生活支援や中心市街地活性化等の地域コミュニティ活性化をテーマに、リーダー育成、生活者・NPO・企業・団体・大学・自治体等とのネットワークの構築、情報発信に取り組んでいる。 ・地域活性化の取組の資金的基盤確立のため、市民ファンドに出資するコミュニティ・マスターファンドの設置に向け取り組み中。	住民主体の形成 ワークショップ 中間支援組織 住環境整備 共生型の住まい 大学連携 福祉とまちづくり アートとまちづくり 市民ファンド組成
33	岡田 春喜	(財)松野町観光公社	森の国ホテル支配人	・「地域のブランド化と広域連携を実現したUターン実務家カリスマ」 ・四国のメイン観光ルートから外れた地域において、公社という経営形態のイメージを超えた質の高いサービスや営業努力により、松野町の「森の国」ブランドを確立する一方で、県域を超えた観光施設間の広域連携の中心に立ち、互いの研鑽と営業力の強化を図り、集客に成功した。	観光振興
34	岡部 友彦	Funnybee 株式会社	取締役	・横浜・寿町を拠点に社会貢献を目指す企業Funnybee設立に参加。17年4月から横浜・寿町の地域再生プロジェクトをスタート。建築や映像を使った地域再生に取組む。 ・現代美術展「BankART Life」等にプロジェクトのプロモーション映像「寿」を出品し、注目を集める。	景観整備 産業育成 国際交流 社会基盤整備
35	小川原 格	(株)藪半	代表取締役社長	・「イベントとITを活用した地域リーダーカリスマ」 ・観光まちづくりとイベントのリーダーとして小樽市を観光都市に育てた。また観光情報に特化したホームページを開設し、全国への情報発信に貢献した。更に後志(しりべし)地域においても、旬の情報や道路情報などのホームページ開設、ネットによる情報交換を通して官民様々な主体の団結を実現。	観光振興
36	小椋 唯一	(社)福島県観光連盟	教育旅行専門部会幹事長	・「修学旅行、校外学習等の教育旅行誘致のカリスマ」 ・修学旅行、体験型校外学習等の教育旅行を、福島県、東北地方へ誘致するべく豊富な知識とノウハウを駆使し新しい企画を打ち出しながら活動を行い、観光産業をはじめとする地域の振興に貢献している。また、磐梯高原地域のプロガイド組織の設立にも大きく関わり、人材育成にも注力している。	観光振興
37	小黒 一三	ソトコト	編集長	・編集・出版を通じて、スローフードやスローライフ、ロハスなどのライフスタイルをいち早く日本に紹介し、一貫してメディアを通じた新たな生活価値観の提を続けている。 ・92年、ケニアのマサイマラ国立保護区に「ムバタ・サファリ・クラブ」を開設し、国際交流を推進している。	国際交流 地域文化振興 環境
38	小澤 庄一	足助観光協会	会長	・「生活文化体験型観光(山里版)のカリスマ」 ・町並み保存運動の先頭に立ち、生活文化を伝承していくことの重要性を住民に浸透させた。また、「三州足助屋敷」、「福祉センター百年草」という二つの独立採算運営の施設を建設し、山村生活文化伝承と高齢者雇用を同時に実現させた。	観光振興
39	小田 禎彦	(株)加賀屋	代表取締役会長	・「外客誘致と広域観光のカリスマ」 ・旅行の国内需要に限られ、海外誘客が課題になる中、日本の旅館文化そのままに、いち早く台湾からの誘客に成功した。また、自社の旅館業にとどまらず、和倉温泉の魅力アップのための事業を展開するとともに、能登半島、ひいては石川県全体の観光産業の発展や地域の活性化に尽力し、交流人口の増加に貢献した。	観光振興
40	鬼山 美穂子	(財)佐世保観光コンベンション協会		・佐世保バーガーを全国にPRし、「佐世保」の全国アピールを実践。	観光振興
41	小野塚 喜明	農林漁業体験民宿「ホテル八幡閣」	社長	・「農林漁業体験民宿の活用及び人材育成によるグリーン・ツーリズム推進のカリスマ」 ・スキー観光客が大幅に減少する中で、地域に賦存する農産物、自然等の地域資源の再評価活動を行い、その地域資源を活用したグリーン・ツーリズムを進めるために「インストラクター等の人材育成、農林漁業体験民宿が連携したシステムづくり」に尽力し、「塩沢町グリーン・ツーリズム推進協議会」を設立するなど、地域活性化に貢献している。	観光振興
42	甲斐 寛人	(株)プロットアンドシステムズ	代表	中心市街地商業活性化アドバイザーとして、主として九州地域の中心市街地活性化協議会等に対するアドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
43	海津 ゆりえ	NPO法人日本エコツーリズム協会	理事	・有限会社資源デザイン研究所代表 ・立教大学、江戸川大学、京都嵯峨芸術大学講師。農学博士。 ・資源のほりおこしやエコツーリズムの取り組み支援、自然とのふれあい調査等を手がける。	自然とのふれあい エコツーリズム まちづくり
44	貝原 良治	カイハラ㈱	代表取締役会長	ジーンズ素材の一貫生産(紡績から染色、織布、整理加工)及び販売を行う創業100年を超える歴史のある会社。デニムの生産・質量は国内ナンバーワン。エンドユーザーの嗜好の変化を調査・分析し、ジーンズメーカーに日々新たな提案をし、生地づくりに活かしている。また、積極的な設備投資を行い、すべてを国内製造している。常に30%~40%は輸出している。	地域中小企業サポーター
45	柿崎 邦雄	(コンサルタント)		中心市街地商業活性化アドバイザーとして、信越地域の中心市街地活性化協議会等に対するアドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
46	鍵屋 一	板橋区福祉部板橋福祉事務所 NPO法人東京いのちのポータルサイト	所長 理事	・NPO法人で、CD説法士の製作、耐震補強フォーラムを実施。内閣府、総務省、文部科学省の検討会等で現場からの災害時要援護者支援、防災教育・人材育成を提案。 ・平成16年、著書の「地域防災力強化宣言」が法政大学地域政策研究賞優秀賞に選定される。	地域防災 安心・安全 災害時要援護者 防災教育 人材育成

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
47	角田 周	企画集団「ラブリ一金木」	代表	・「もつけ」と「じよっぱり」の津軽カリスマ ・厄介者の風雪と寒さを逆手にとった「地吹雪体験ツアー」などの人気を定着させ、多数のファンを生み出した。また、新たなイベントを手がけ、さらに広域観光ネットワークづくりにも取り組んでいる。	観光振興
48	梶川 貴子	株式会社ウェルネス・アリーナ	代表取締役社長	ウェルネスを活用した観光振興、ホテル・リゾート再生に取り組む。農業や医療、運動などと連動したプログラムを策定し、推進している。	ウェルネス スパ 観光振興 リゾート再生
49	梶島 達也	農林水産省林野庁木材利用課	課長		
50	春日 俊雄	柏崎市	観光交流課長	・「農村滞在型交流観光」による地域づくりのカリスマ ・地域づくり構想の策定の機会を活用し、外部者の視点を取り入れつつ町民を交えた200回以上もの話し合いを主導して「自分たちがまちづくりの主役」との意識改革を促した。これにより、宿・温泉・交流館などについて町民自らの手で運営する意気込みが生まれ、その雰囲気が多く観光客の感動を呼ぶなど地域の活性化が実現した。	観光振興
51	片岡 由美	(コンサルタント)		中心市街地商業活性化アドバイザーとして、主として関東地域の中心市街地活性化協議会等に対するアドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
52	片桐 正彦	国土交通省近畿地方整備局	副局長		
53	加藤 慎一郎	(株)加藤地域政策プロデュース	代表取締役	中心市街地サポートマネージャー、中心市街地商業活性化アドバイザーとして、全国各地の中心市街地活性化協議会等に対し、活性化に資する各種アドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
54	加藤 文男	南房総市	生活環境部長	・「道の駅と広域連携のカリスマ」 ・「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の初代駅長として、計画立案から、開設後の運営管理に取り組み、特産の枇杷を活用した商品開発や、集客資源を広域的に束ねて誘客する「一括受発注システム」を稼働させ、道の駅運営法人の黒字経営を継続させた。また、人形劇などの地域文化の磨き出し、インターネットを活用した広域情報の発信による地場産業振興など、多角的手法で広域的な地域振興に努めた。	観光振興
55	金井 啓修	有馬温泉旅館「陶泉(とうせん) 御所坊(ごしよぼう)」	主人	・「温泉観光を核にしたコミュニティビジネスでまちのブランド力向上と活性化を進めるカリスマ」 ・個人客をターゲットとした個性的な宿づくりに成功したばかりではなく、まちづくり全体を考えた集客の仕掛けづくりに取り組み、有馬の住民が温泉観光をまちづくりとあわせて考えようとする意識改革に大きく貢献した。	観光振興
56	加森 公人	加森観光(株)	代表取締役社長	・「雇用継続を前提とした大型リゾートの再生・運営カリスマ」 ・経営が悪化したリゾート再生において、雇用を継続しながらも地域の実情を最大限に活かし、かつ初期コストを抑えたリゾート経営ノウハウを独自に考え出して、多くの破綻したリゾート地域を救った。	観光振興
57	唐沢 彦三	(財)北斎館	理事長	・「人と花の輝くまちづくりカリスマ」 ・観光資源の乏しい人口1万人の小布施を、北斎館を中心とした文化と歴史が溢れ、年間120万人が訪れる町へと変えた。また、景観整備や花のあるまちづくりなど、住民が主役となって進める町づくり運動を成功させた。	観光振興
58	唐橋 宏	会津そばピア会議	会長	・「そばによる地域おこしのカリスマ」 ・日本初の「全国そばサミット」を企画するなどそばを起爆剤とした地域活性化に市町村の枠を超えたネットワークで取り組むとともに、自らも「会津そば塾」を運営するなど、そばファンの開拓とそばを通じた全国各地のむらおこしに貢献した。	観光振興
59	河合 進	みなかみ町土地開発公社	理事長	・村民と観光客が共に喜ぶ観光地づくりのカリスマ ・景観、歴史、文化など農村のもつ潜在的な観光魅力に着目し、都会からの観光客とのふれあい交流に村民が積極的に参加することにより観光振興と地域活性化を促進するという独特の「たくみの里」構想などを推進することにより、村民も観光客も喜ぶ観光地づくりに成功した。	観光振興
60	河崎 妙子	(有)河崎妙子事務所	代表取締役社長	中心市街地商業活性化アドバイザーとして、主として九州地域の中心市街地活性化協議会等に対するアドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
61	川又 順次	別府市ONSENツーリズム局観光まちづくり室	主幹	・市民が主体となるまちづくり活動の支援を目的に、温泉資源を活かした地域通貨「泉部」の社会実験に従事。現在も「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりをテーマにONSENツーリズムの推進に取り組む中。	住民参加 観光振興
62	菅家 洋一	(株)エマキ(福島県)	取締役会長	・福島県の老舗建設会社 会津土建(株)の経営者であるとともに、建設業の新分野進出の先駆者。 ・平成11年より独自に画像処理技術の研究を進め、世界初の静止画像処理ソフト「Mofix」(動画データから静止画像の自動作成が可能)を開発。画像処理専門の別会社(株)エマキを設立し、IT分野で実績をあげている。	建設産業再生
63	喜岡 達	(株)ハガタ屋	代表取締役社長	1967年創業。手袋生産地における手袋生地裁断の抜型技術を応用して、自動車等の曲面プラスチック成型品を打ち抜く「3D抜型」(三次元)を開発し自動車メーカーや部品メーカーへの販路拡大に成功。また、切れ味と耐久力を生かした抜型で全国封筒製造メーカーの約80%と取引を行っている。	地域中小企業サ ポーター
64	菊地 規泰	(株)菊地保寿堂	代表取締役	創業1604年の歴史を有する。山形鑄物の伝統的製法を活かした茶器や鉄瓶の製造に取り組む。山形カロッツェリアプロジェクトに参画し、デザイナーの奥山清行氏とともに開発した和鉄ポット「蘭」は、2006年1月にフランス・パリで開かれた世界最大の見本市「メゾン・エ・オブジェ」で高い評価を獲得し、国内においても大きな需要開拓に成功。	地域中小企業サ ポーター

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
65	木谷 正道	平塚耐震補強推進協議会 まちの音楽家世話人	副代表	平塚耐震補強推進協議会副代表として、被害軽減の切札である耐震補強に取組む。福祉施設でのギター弾き語り、囲碁普及、下草刈り、子育て支援、団塊サミット、地域活性化なども合わせ、地域力向上と連携に力を入れている。	ネット社会 住民参加 地域活性化 高齢者・障害者 地域文化づくり 子ども・教育 農・森・環境 防災・耐震補強
66	吉川 真嗣	味匠 喜っ川	専務取締役	・「光かがやく町屋再興カリスマ」 ・城下町・村上に残る昔ながらの町屋を舞台に、生活空間である「町屋の中の公開」をはじめ「町屋の人数さま巡り」「町屋の屏風まつり」の企画や、景観の再生に取り組み、町屋の歴史的価値と魅力を全国に広め、多くの観光客が訪れるなど村上の活性化に貢献した。	観光振興
67	木村 乃	三浦市役所 政策経営部	部長	三浦ならではの暮らし方、遊び方、営み方を「みうらスタイル」と名付け、まぐろを中心とする食文化、エコツーリズム、映画の撮影支援事業（フィルムコミッション）などを総合的に展開する独自の経済構造コンセプト「6次経済」の構築によって、首都圏の観光客を呼び込み、地域の活性化にとりくんでいる。またバイオマスを活用し、廃棄物ゼロの漁港環境づくりを目指している。	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 観光振興 地域文化振興 環境
68	木村 俊昭	地域再生推進室	企画官		
69	木本 圭一	関西学院大学 商学部	学長補佐 准教授	・平成15年度全国都市再生モデル調査を契機として、関西学院大学と宝塚市、他大学等がタッグを組んで、宝塚の中心市街地の活性化を目的とした取組を展開。学生が、空き店舗活用や賑わい再生の社会実験、都市のデザインの検討、都市ブランドの構築等に取り組んでいる。木本学長補佐はこうした取組のコーディネーターとして活躍 ・平成15年度より始まった関西経済連合会インテリジェントアレー構想下でのビジネスパーソン教育のための大学・経済界連携が、平成19年4月、関西の17大学が加盟する「NPO法人関西社会人大学院連合」を設立することを決定した。これは日本初の社会人教育を目的とした、経済団体、地方自治体、大学連合の連携協力組織である。木本学長補佐は、この関経連インテリジェントアレー企画運営委員会座長として取組を進めてきた。	中心市街地活性化 大学地域連携 大学経済界連携
70	工藤 順一	観光カリスマ工藤事務所	代表	・「観光農業のカリスマ」 ・農業を「無限の観光資源」としてとらえ、「雪中いちご狩り」など、観光と農業を結びつけたユニークな商品づくりを展開し、これまで寒河江を通過していた多くの観光客を「着地」させることに成功した。	観光振興
71	國井 千壽子	NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター さんぼく生業の里企業組合 NPO法人おたすけさんぼく	理事長 総支配人 監事	・新潟県岩船地域における、広域地域づくりの担い手支援組織の理事長として活躍。 ・住民、企業及び行政のパートナーシップに基づき、三者の中間に立ち、様々なコーディネートやプランニング、リサーチなどを行うとともに、山里の暮らしに息づく生業の体験や地域産物・食の提供などにより、多くの来訪者を得ている「さんぼく生業の里企業組合」、住民参画による気軽に利用できる相互福祉サービスを目指すNPO「おたすけさんぼく」等、地域を元気にしている起業家やNPO等の先導役として自ら地域づくり活動を実践。	住民参加 農山漁村活性化 少子・高齢化 地域文化振興
72	熊倉 浩靖	特定非営利活動法人NPOぐんま	代表理事	・日本で最初に公認されたNPO法人形態の市民立シンクタンクの代表理事として、各地で住民参加型の行政計画の立案・実施・評価に参加。 ・とくに近年は、分権型社会における地域活性化の鍵となる市町村の業務改善に行政評価の面から関与。全国60以上の都市が参加・運営している都市行政評価ネットワーク会議の分析チームリーダー。 ・また、長年高崎市公民館運営審議会会長として、民主主義の学校にして地域自治の拠点である公民館活動の発展・再生に具体的にに関わり続けている。 ・さらに、地域の商店街理事として中心市街地活性化・商店街振興を身をもって実践し、高崎市が進めている世界5都市との間の環境協カプログラムを10年以上にわたってコーディネート。 ・森と人の未来のための群馬ビジョンを推進する会会長として木質バイオマスの利・活用にも携わり、エコアクション21地域事務局群馬責任者、アジア史学会事務局次長、高崎市都市景観重要建築物高崎哲学堂常務理事、高崎コミュニティシネマ監事などの顔も持つ。	自治体行政評価 参加・協働、住民自治・地域自治 社会教育（公民館）・ 地域文化振興 環境マネジメント、バイオマス利・活用 中心市街地活性化・ 商店街振興 中山間地域活性化・ 都市農村交流 国際交流・姉妹都市交流
73	小出 宗昭	SOHOLずおか （静岡県中部地区 SOHO推進協議会）	インキュベーション マネージャー	SOHOLずおかインキュベーションマネージャーに就任して以来、5年間で200件以上の新規事業の立ち上げに関わる。起業家の創出と地域産業活性化に向けた支援活動が高い評価を受け、2005年2月に起業支援家としては最高の荣誉となる「Japan Venture Award 2005」（創業・ベンチャー国民フォーラム主催）起業支援家部門 経済産業大臣表彰受賞。	創業支援 産業支援 地域活性化
74	小馬 勝美	（前美山町助役）		・むらおこし・交流・新産業おこしのカリスマ ・約2000戸の民家のうち250戸近くが萱葺きという日本一の残存率を活かし、「美しい町づくり条例」を課してその町並み保存に力を入れるとともに、提供する料理や飲料にはあくまで「地元産」にこだわって都市農村交流を進め、「家は必ず木造」などの厳しい入村規定にもかかわらず多くの都市住民が定住するなど、地域の活性化に貢献した。	観光振興
75	後藤 健市	場所文化プランナー （南）プロット 北海道字図書館 場所文化フォーラム	代表取締役 副館長 代表幹事	・青年会議所、商工会議所青年部の活動を通して、「北の屋台」立ち上げ・出店に加わり、帯広に賑わいを取り戻す。場所文化フォーラムを立ち上げ、全国各地の場所文化の創造に取り組む。同時に日本商工会議所青年部としても活躍中。また、心の教育プログラムを全国各地の学校・企業で実施し好評を得ている。	中心市街地活性化 観光振興 地域文化振興 教育 ICT・情報化
76	後藤 哲也	（有）新明館	代表取締役	・「癒し空間演出のカリスマ」 ・敷地内の岩山を掘り抜いて作った幻想的な露天風呂で、癒しを求める顧客の心を捉え成功。また、樹木の配置までもこだわり、統一感ある街並みと素朴でくつろげる雰囲気温泉郷作りに取り組み、黒川温泉郷全体の活性化に貢献。	観光振興
77	小林 英嗣	北海道大学大学院 NPO法人都市計画 画家協会 NPO法人全国街道 交流会議	教授 副会長 理事	・北海道を基盤としつつ、全国各地でまちづくり・まちなみ形成活動を実践・主導。 ・全国まちづくり衆として2005年から全国都市再生まちづくり大会を主催し、2006大会では大学地域連携交流会においてもコーディネーターとして議論を主導。 ・現在、日本建築学会大学地域連携支援ワーキンググループにおいて、大学地域連携まちづくりの取組の調査分析に取り組んでいる。	大学地域連携 まちなみ・景観形成 シーニックバイウェイ

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
78	小松 隆二	東北公益文科大学	学長・教授	・キャンパスを学びの場として市民に開放するとともに、地域を実践教育のフィールドとして多くの学生が中心市街地活性化などのまちづくり活動に参加するなど、大学をあげて地域と連携したまちづくりに取り組んでいる。 ・平成17年12月の都市再生本部会合に出席し取組を報告。「大学地域連携まちづくりネットワーク」を発起人として主導。 ・平成18年5月には「大学地域論－大学まちづくりの理論と実践」を出版。	大学まちづくり 地域との協働・共創
79	小宮 和一	(株)アーバンソフト	代表取締役	中心市街地サポートマネージャー、中心市街地商業活性化アドバイザーとして、全国各地の中心市街地活性化協議会等に対し、活性化に資する各種アドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
80	小室 淑恵	株式会社ワーク・ライフバランス	代表取締役	2007年株式会社ワーク・ライフバランスを設立。 女性の育児休業者に限らず、男性も含めた様々な休業者の職場復帰もスムーズにする仕組み「armo(アルモ)」を開発、多様な価値観を受け入れられる弾力的な日本社会にするべく、日々尽力している。 企業のワーク・ライフバランスコンサルティングを行い、社員の働き方の見直しなどでの相談を受けている。 男女共同参画会議「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会」委員及び「内閣府 新しいライフスタイルの創出と地域再生に関する調査研究会」委員 就任。 armo[アルモ]は第3回日本ブロードバンドビジネス大賞を受賞。	ワーク・ライフバランス 雇用創出 人材育成 少子・高齢化
81	小山 邦武	北信州森林組合長		・ありのままの自然を舞台としたグリーン・ツーリズムによる地域づくりのカルスマ ・グリーン・ツーリズム客のニーズを取り入れるためにスタッフとして都市部の若者を公募・採用し、180人の市民インストラクター(地元の名人)による100種類以上の自然・農林業体験プログラムを四季を通じて企画・提供することにより、通年で多くの観光客を集めるとともに、地域の活性化に貢献した。	観光振興
82	斎藤 一彦	常磐興産(株)	代表取締役社長	・「観光による地域再生のカルスマ」 ・独創的なアイデアと行動力で温泉施設を全国区の温泉テーマパークに育て上げ、地元雇用を創出するなど地域経済の活性化を実現し、斜陽の石炭城下町を、観光を基幹産業とする地域に転換・再生させることに貢献した。	観光振興
83	斉藤 俊幸	イング総合計画株式会社 (関東学院大学非常勤講師)	代表取締役社長	・神奈川県横須賀市の関東学院大学のまちなか研究室「追浜こみゆに亭」で日本で始めて商店街にワイナリーを設立し、その収益で自立した大学の地域貢献活動拠点を運営。この活動が認められ熊本県荒尾市の地域再生マネージャー(※)として平成16から18年度に荒尾市農林水産課地域再生係に赴任し、まちなか研究室「青研」等の拠点に常駐しながら雇用創出、起業創造活動を推進。荒尾市の地域再生事業は食づくりの起業を目指した雇用の受け皿づくりであり、厚生労働省のパッケージ事業、総務省の地域再生マネージャー事業、文部科学省の現代GPを活用した地域再生の取組が全国的に注目されている。 ※熊本県荒尾市地域再生マネージャー ・商店街の空き店舗を利用して、農産物直売等を行う販売店の立ち上げ(郊外のショッピングセンターに行くことが難しい地元の高齢者に大変好評)。 ・空き店舗を活用して、コミュニティレストラン「梨の花」を開設(地元の主婦を中心とした日替わりシェフによる日替わりランチを提供)。 ・荒尾産のさつま芋を使用した焼酎「小袋」やワイン「荒尾乃葡萄酒」等の商品化。	産業育成 雇用創出 人材育成 地域間交流 商店街振興
84	斎藤 文夫	川崎市観光協会連合会	会長	・「東海道川崎宿復興に情熱を注ぎ、川崎のイメージアップに挑むカルスマ」 ・東海道の宿場として栄えた川崎宿の復興をめざし、私財を投じて江戸風の「川崎・砂子の里資料館」を開設した。また、市民の手作りによる「大川崎(宿)祭り」を二度も成功させた。 現在は、川崎市観光協会連合会会長として、観光不毛の街であった川崎市を「観光都市・かわさき」へと市民レベルから育てていくことに全情熱を傾けている。	観光振興
85	坂本 和昭	坂本ビル(株)	代表取締役社長	・「屋台村を核とした観光・地域づくりのカルスマ」 ・北海道での屋台村という、誰もが困難と思った試みを斬新なアイデアと工夫により帯広市に実現した。そのことが全国各地のモデルとなり、視察の受け入れなどを通じ、他地域の屋台村に貢献している。	観光振興
86	坂本 多旦	船方農場グループ	代表	・「農業経営を基礎とした観光交流空間の創出のカルスマ」 ・無駄な投資をせずに料金もとらない「O円リゾート構想」を掲げ、異業種・地域外の視点を取り入れた新しい企画により従来閉鎖的であった農業経営の現場を一般に開放して「教育の場」などとして多くの都市住民を集めるなど、地域の人々と協働し、サービス提供と一体化した農産品販売を実現した。	観光振興
87	坂本 世津夫	高知大学	教授	ICTを活用した地域の振興と活性化 ・高知県における「ICT」を活用した地域振興・育成と地域活性化の取組の経験 ・地域活性化に向けて、情報通信技術(ICT)を活用したベンチャー企業の支援、NPOの組織化の支援、テレワークの環境整備の先進事例の紹介 ・2003年「地域産業おこしに燃える人」に選出	ICT・情報化 人材育成 産業育成
88	崎田 裕子	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット (ジャーナリスト・環境カウンセラー)	理事長	・生活者の視点で近年は環境問題、特に「循環型社会づくり」を中心テーマにすると共に、環境省登録・環境カウンセラーとして環境学習の推進にも広く関わっている。 ・NPO法人「持続可能な社会をつくる元気ネット」では、「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」表彰制度を実施し、全国各地の個性溢れる環境を軸にしたまちづくりを支援している。 ・また、NPO法人「新宿環境活動ネット」代表理事として、住民・事業者・行政・学校の連携・協働による環境教育・環境学習を推進する等、地域環境活動にも取り組んでいる。	環境 住民参加 地域コミュニティ 市民活動・NPO 教育 パートナーシップ
89	酒元 謙二	㈱オーシャン・トゥエンティワン	代表取締役研究所長	起業家育成セミナーの企画・提案・実施に携わるとともに、沖縄の特性を活かした独自のフォローシステムを開発、県内における起業率向上に貢献。久米島、北谷町等の地域おこし事業にも携わり、地域活性化の視点での企画・提案活動を幅広く行っている。	地域中小企業サ ポーター
90	笹原 司朗	琵琶倉庫(株) (財)長浜文化スポーツ振興事業団	代表取締役会長 理事長	・「無一物からの再興のカルスマ」(観光カルスマ) ・地元の貴重な資源である「黒壁銀行」が売りに出されたことをきっかけに、地元有志とともに(株)黒壁を設立し、黒壁銀行を買い取り。 ・欧州と比較して文化的認知度が低かったガラス工芸に着目し、(株)黒壁を中心に、古い街並みと新しいガラス細工の新旧の観光資源の対比をうまく演出、来客が少なくなっていた商店街を僅か数年で活性化。	産業育成 観光振興

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
91	定藤 繁樹	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科	教授	・平成15年度全国都市再生モデル調査を契機として、関西学院大学と宝塚市、他大学等がタッグを組んで、宝塚の中心市街地の活性化を目的とした取組を展開。学生が、空き店舗活用や賑わい再生の社会実験、都市のデザインの検討、都市ブランドの構築等に取り組んでいる。定藤教授はこうした取組の中心人物として活躍。 ・京都市サテライトパークでベンチャーインキュベーションや産学連携活動を担当し、大学を中核としたリサーチパークやサイエンスパークを通じたまちづくりについての研究・活動実績を有する。	産業育成 中心市街地活性化 大学地域連携(産官学連携)
92	佐藤 和志	乳頭温泉郷(有) 鶴の湯温泉	代表取締役	・「秘湯の温泉カリスマ」 ・秘湯ロマンにこだわり、豪雪の地で冬季営業を始め、湯治場風景や自然環境を守るため周辺土地の取得など、乳頭温泉郷の環境保全とイメージアップに尽力し、全国的な人気温泉地を作り上げた。	観光振興
93	佐藤 淨	(元徳島県脇町長) 徳島西部農業共済組合	組合長理事	・「歴史的町並みを活かすカリスマ」 ・脇町の歴史的建造物であるうだつの町並みを修復し、観光客を集客するまでに育て上げた。また、町おこしの組織化、ボランティア活動の活発化や人材発掘などを通じて、住民を地域活性化の主力に位置付けた観光地づくりを推進した。	観光振興
94	佐藤 利雄	花巻市技術振興協会企業事業部	部長	・地域産業おこしに燃える人 ・平成8年開設された花巻市起業家支援センター職員として派遣。民間経験から産学官連携、販路開拓支援など展開。現在全国各地より研究拠点として花巻市起業家支援センター入居企業多数。平成18年「JANBO Awards 2005」に選定される。	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流 産学官連携 起業家支援
95	佐藤 雄二	小野川温泉(有) 河鹿荘	代表取締役社長	・「『観光知』のカリスマ」 ・小さな温泉街「小野川温泉」を魅力あるものにするため、若手リーダーとして地域をまとめ、「夢ぐりプラン」「そぞろ歩きお休み処」どこでも出前」をはじめ数々の新たな試みを行い、短期間で小野川温泉を「そぞろ歩きができる温泉街」として全国から注目される温泉街に成長させた。	観光振興
96	澤 功	澤の屋旅館	館主	・「下町の外国人もてなしカリスマ」 ・倒れかかった下町の小さな旅館を、積極的に外国人旅行者を受け入れることによって再生するとともに、全国各地で外国人旅行者の待遇方法などを説明して、宿泊施設が外国人旅行者を受け入れる際に抱く危惧を払拭することに努め、外国人旅行者の受入促進の啓蒙を図っている。	観光振興
97	澤井 英一	都市再生本部・中心市街地活性化本部事務局	事務局長(内閣審議官)		
98	実吉 威	NPO法人市民活動センター神戸	理事・事務局長	・阪神・淡路大震災の経験から市民自身による公共活動の重要性を認識し、「震災・活動記録室」を経て、今日の市民活動センター神戸に至る。 ・市民活動・市民事業のマネジメント(経営)支援を軸にしつつ、同時に市民活動そのものの社会へのアピールや、市民活動の基盤整備を重視。そのための調査研究や政策提言にも力を入れる。 ・障害者製品、途上国産品の販売支援を行うフェアトレードショップを併設(神戸元町商店街)、こちらは有限会社組織で運営している。	NPO/NGOの経営支援 活動拠点の提供・物販への支援 ネットワーク作り 調査研究と政策提言
99	篠原 靖	東武トラベル(株)	企画仕入部副部長	・地域に眠る観光素材を掘り起こし、具体的な旅行商品化を図る面白企画の立案に活躍	観光振興
100	柴田 いづみ	滋賀県立大学環境科学部(一級建築士・フランス政府公認建築家(D.P.L.G))	教授	・学生サークルACTと連携した中心市街地の活性化。[民・官・産・学+子供達]の協働による琵琶湖の再生など、地域づくりに積極的に参加。 ・全国的な防災まちづくりのネットワークである耐震補強フォーラムの主要メンバーとして、耐震補強のためのワークショップなどを展開。[防災・耐震・まちづくりフォーラムin彦根実行委員長]	中心市街地活性化 まちなみ・景観整備 環境 市民自らの防災・耐震
101	洪川 恵男	会津若松商工会議所	副会頭	・「街並み整備によるまちなか観光のカリスマ」 ・空洞化が進む会津若松市七日町通りに、かつての賑わいを戻すため、蔵や木造商家、洋館などの既存建物を活かした街並み整備のための組織化を図り、建物の修繕と併せた業種転換・空き店舗の活用や、各種イベントも開催。ハード・ソフト両面で誘客に尽力し、「まちなか観光」を推進している。	観光振興
102	渋谷 文枝	農家レストラン経営		・「伝統食によるアメニティ創出のカリスマ」 ・農村食文化の女性起業家として、自ら経営する農家レストランにて、アイガモ農法による有機米や自家野菜を使用した地域の伝統食を提供するなどスローフードを実践し、農村発の食アメニティを県内外へ情報発信し、農村女性起業家のモデルとして都市農村交流を通じた地域の活性化に貢献している。	観光振興
103	嶋沢 裕志	日本経済新聞社編集局産業地域研究所 日経グローバル	副所長 編集長(地域研究担当部長、主任研究員)	・雑誌(専門媒体)による地域活性化の最前線の動きの取材・報道はじめ、まちづくり、地域観光振興、観光客誘致など様々な先駆的な取組を紹介している。 ・平成18年3月、「日経グローバル」編集長に就任。	観光振興
104	清水 慎一	(株)ジェイティービー(JTB)	常務取締役 事業創造本部長	JR東日本で取締役営業部長、取締役仙台支社長を歴任。仙台においては日本観光協会東北支部長を兼任し、交流人口の増加こそが地域の活性化につながるのと考えて東北各地のまちづくりをリード。2004年2月「YOKOSO! JAPAN THE祭り東北」の実行委員長等を務める。 2004年6月に(株)ジェイティービー常務取締役(訪日ツーリズム推進担当)に就任。 2005年6月に事業創造本部長に就任後、宇宙旅行・シニアのロングステイプランなど新商品を打ち出す。 国土審議会計画部会「国土基盤専門委員会」委員、国土交通省「地域への人の誘致・移動の促進に関する研究会」委員、経済産業省「集客交流経営人材の在り方に関する調査研究事業」運営委員会委員、東京都観光事業審議会委員、山形県観光事業審議会委員、全国産業観光推進協議会理事、東北経済連合会「地域戦略検討委員会」委員、宮城県政策顧問、とうほく街道会議顧問として活動し、地域活性化推進の牽引役として各地開催のまちづくりシンポジウム等の講師を務めるなど幅広く活躍中。	観光振興

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
105	下田 祥裕	NPO法人KAO(カオ)の会 (三井建設OB)	理事・事務局長	・地権者である再開発事業者の一人として協議会に参加。個人地権者の合意形成活動の過程で信頼を得て、駅前再開発に貢献。ハードだけではなく、ソフト(維持管理体制)を考えたまちづくりを提唱。 ・現在は、駅前ビル管理事業とともに、鎌ヶ谷市からの駅前管理受託事業等の公益活動も実施。民間と行政が一体となった一元管理体制を構築し実践。 ・「平成17年度土地活用モデル大賞」で国土交通大臣賞受賞、16年度全国都市再生モデル調査実施主体。	住民参加による駅前を核としたまちづくり
106	白仁 昇	フロンティアPR(株)	代表取締役	神奈川県出身の「うちなーむーく」(伴侶が沖縄出身)東京の人材開発会社を経て、1991年より沖縄移住。沖縄の原材料にこだわった「ちゅらら」化粧品プロデュース。その成功の過程で、「広報」の大切さを学ぶ。2003年に沖縄県内初の広報支援会社「フロンティアPR」を設立。県外マスコミとのネットワークを活かし、県内企業の本土市場開拓(外貨獲得)への「成果発揮型サポート」を通じ、沖縄県の自立経済を支援。	地域中小企業サポーター
107	洲鎌 孝	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	常務理事	地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
108	鈴木 邦治	名城大学北部生涯学習推進センター	センター長	・沖縄県名護市における企業誘致、雇用促進の取組の経験 ・情報通信を活用した地域活性化の先進事例の紹介 ・インターネット(eラーニングシステム)を活用した人材育成	ICT・情報化 産業育成 人材育成
109	鈴木 輝隆	江戸川大学社会学部	教授	・「住民自治と情報力で地域経営」が研究テーマ。全国を歩き、北海道ニセコ町や長野県小布施町、秋田県田沢湖町乳頭温泉、北杜市須玉町津金「鶴の湯」等全国の地域づくりのネットワークを構築。 ・東京では、毎月1回「ローカルデザイン研究会」を主宰。著書は「田舎意匠帳(ろーかるでざいんのおと)」。	住民参加 観光振興 人材育成 地域間交流 地域文化振興
110	関 幸子	三鷹市立三鷹駅前図書館 地域産業おこしに燃える人の会 (前・(株)まちづくり三鷹シニアマネージャー)	館長 幹事長	・平成10年に、まちづくり機関(TMO)[株式会社まちづくり三鷹]設立に参画、事業部プロジェクトマネージャーとして、SOHO及び都市型産業の集積と育成を中心に、新産業振興と企業支援に従事。子育てサイトの運営、シニアの地域化なども支援。 ・2003年「地域産業おこしに燃える人」に選出。2005年「日経ウーマンオブサイア-2005」受賞。2006年「ジョンソン&ジョンソン ヘルシーソサイエティ賞」受賞。	住民参加 中心市街地活性化 産業育成 少子・高齢化 子育て支援 コミュニティビジネス NPO SOHO・ICT
111	善養寺 幸子	オーガニックテーブル(株) 株エコエナジーラボ	代表取締役 代表取締役	・オーガニックテーブル業務内容:環境建築設計監理、環境都市計画、プロダクツデザイン、環境教育 ・エコエナジーラボ業務内容:総合環境コンサルティング	環境建築 環境都市計画 環境政策 人づくり
112	曾我 治夫	(株)東日本旅客鉄道	東京支社びゅう事業部販売課長	・新潟県佐渡島、新発田市月岡温泉、湯沢町越後湯沢温泉、長岡市、小千谷市片貝地区等の観光開発と商品化に活躍	観光振興
113	曾根原 久司	NPO法人えがおつなげて 山梨大学	代表理事 客員助教授	・平成17年度全国都市再生モデル調査において、山梨県北杜市を拠点とした都市と農山村交流による観光振興に向けた調査を実施。 ・元経営コンサルタントのノウハウを活かし、地元地方銀行にNPO融資制度の創設を働きかけ実現。 ・自らのNPOも年商が数千万円に達しており、事業NPOの運営に精通。	農村漁村活性化 都市農村交流 産業育成 観光振興
114	園田 正彦	(株)三井物産戦略研究所国土・地域振興室	室長	80市町村の地域活性化を支援・アドバイス、NPO日本トレッキング協会・スロータウン連盟・日本乾物協会・地域でムービー協会等を設立し、地域を支援・アドバイス	都市との連携 産業育成 高齢化対応 農山漁村活性化
115	平 智之	(有)アドミックス(東京都)	代表取締役	・昭和63年に(有)アドミックスを設立して以降、地域建設企業の経営や建設市場の制度問題を専門としてコンサルティングを行っている。中小建設企業や建設事業者団体の生き残り戦略に関する提言や講演活動多数。	建設産業再生
116	高木 治夫	株式会社ネットイン京都	代表取締役	地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
117	高瀬 博章	春日学区自治連合会(京都市) NPO法人春日住民福祉協議会	会長 代表	・自治会の活動を通じ、福祉防災地区の作成や地域課題に応じた講義・相談会を開催。 ・マンション住人をどう自治会に取り込むかに腐心。	住民参加 少子・高齢化 教育・青少年対策 安全・安心
118	高津 定弘	独立行政法人労働政策研究・研修機構	常任参与	・労働政策研究報告書(No. 42)「戦略的都市雇用政策の課題に関する基礎的研究-21世紀の東京の機能-」2005年9月 ・労働政策研究報告書(No. 71)「都市雇用にかかる政策課題の相互連関に関する研究」2006年9月	都市雇用政策 ICT・情報化 中心市街地活性化 農山漁村活性化 産業育成 少子・高齢化 共通・分野横断的課題
119	高橋 亮太郎	四条繁栄会商店街振興組合(京都市)	会長	・品格のある京都の中心商店街をめざすため、四条の商店街で地区計画条例により出店規制を実施。 ・京都の36商店街組合、8同業種組合、1商工会、1デパートによるクレジットカード一括処理団体「合同会社きょう情報カードシステム」を創設し、公共交通機関との連携実験を実施。	中心市街地活性化 商店街振興 まちなみ・景観整備 交通

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
120	高本 社	榊白鳳堂	専務	毛筆の伝統的な製造技法を用い、なめらかな肌触りで色の濃淡など微妙な表現を可能にする化粧筆を開発、その量産化に成功。有名ブランドへの直接OEM供給を安定して実現。また、自社ブランドにおいては、既存の流通形態を見直し、有名百貨店での直販・インターネット販売などを通じ、消費者にダイレクトに提案・情報収集できる体制を確立。	地域中小企業サポーター
121	田口 久義	特定非営利活動法人 田沢湖ふるさとふれあい協議会	会長	・農村滞在型修学旅行ビジネス創出のカリスマ ・修学旅行・体験学習向け農業体験の総合的窓口として、学校毎に異なるニーズと農家ごとの受入可能性・スケジュール等の相互調整を旅行代理店も含め一手に引き受け、町全体として対応することによって万全の受入体制を築き高い評価を受けるなど、都市農村交流の活性化に貢献した。	観光振興
122	竹田 純一	里地ネットワーク	事務局長	・「里地里山保全再生の先駆者」 ・地域内循環・人と人の共生、人と自然の共生、住民主体・市民参加型の地域づくりをめざす人々の内発型人的ネットワークを形成し、地域リーダーに対するサポート活動実施 ・各地でのシンポジウムの開催、講演会等実施、各種メディアへの情報発信と制作プロデュースなども行う	環境 地域間交流 農山漁村活性化
123	武政 功	都市再生本部・中心市街地活性化本部事務局	参事官		
124	竹本 慶三	させほ四ヶ町商店街協同組合	理事長	・長崎県佐世保市の三ヶ町、四ヶ町の商店街で「きらきらフェスティバル」や「Yosakoiさせほ祭り」などのイベントを開催し、人がいる商店街として地域活性化を実践。 ・平成18年、長崎県観光マイスターに認定される。	商店街振興 住民参加 観光振興
125	竹盛 洋一	竹盛旅館	代表者	・「地域主体で自然の保護と活用の両立を実践するカリスマ」 ・西表島という自然豊かな沖縄の中でも特に原生的な自然資源に恵まれた島において、貴重で豊かな自然と共生しつつ地域振興を図るという新しい観光のあり方を模索し、実践する活動の中核として活躍。具体的には、多様な関係者を束ね、日本で初めて「エコツーリズム協会」を設立し、エコツーリズム運動を促進するとともに、自らも旅館経営者としてエコツーリズムを実践し、その普及に尽力。	観光振興
126	館 逸志	内閣府経済社会総合研究所景気統計部	部長		
127	田中 恭一	(財)トヨタ財団 地域社会プログラム	シニア・プログラム・オフィサー	・地域社会の再構築と活性化を目指し、地域に暮らす人々が主体となった実践的なプロジェクトへの助成を実施(1件当たりの助成金の上限は200万円)。 ・地域社会の再構築と活性化を目指した活動の具体的な成果を他の地域で類似な実践をしている人たちと比較、共有することを目的とした「活動記録の出版」や、地域社会の再構築と活性化を目指した活動の経験から蓄えられたものを地域間で共有し広めるための広域ネットワークへの助成を実施(1件当たりの助成金の上限は前者が100万円程度、後者が400万円)。	住民参加 地域コミュニティ 地域社会支援
128	田中 まこ	神戸フィルムオフィス	代表	・「映像による地域振興・観光隆盛のカリスマ」 ・欧米、アジアなどのフィルムコミッショナーやエンターテインメント産業への自身の幅広いネットワークを活かしながら国内外のロケを積極的に誘致し、併せて映像制作の経験の豊かさを活かしたフィルムコミッション活動を推進し、神戸の街の「映像による」観光振興に尽力している。	観光振興
129	田中 勝	榊美瑛の学び舎(廃校活用プランナー)	代表	北海道・美瑛にて廃校を活用した滞在型観光ビジネスに取り組んでいる。	観光振興 農山村活性化
130	玉沖 仁美	熱海市観光戦略プロデューサー(H19.4.23付)		・地域コンサルタントとして、沖縄県国頭村、座間味村、島根県海士町の地域活性化に貢献 ・沖縄県に2年間出向し、後にジョブカフェという国の事業になった全国初の若年就業支援を担当 ・子供の教育・研修を行うNPO法人「じぶん未来クラブ」の理事として活躍	観光振興
131	玉田 樹	榊ふるさと回帰総合研究所 NPO日本シンクタンク・アカデミー(野村総合研究所)	取締役所長 前理事	・野村総合研究所では、社会システム論、産業論を専門として、政府の政策立案、地方の活性化、地域産業育成などを実践。 ・現在、ふるさと回帰総合研究所にて、大都市住民の地方への二地域居住、地方兼居の具体化を支援。また、NPO日本シンクタンク・アカデミーでは、新しい社会システムについて提言。	二地域居住 地域活性化 産業育成 ICT・情報化
132	玉村 雅敏	慶應義塾大学総合政策学部	准教授	・生活課題や地域力、地域のアウトカムを調査し、その「みえる化」と「共有化」から協働・共創を促すシステム構築を実践。 ・青森県「政策マーケティング」や愛知県東海市「まちづくり指標」などの実践事例を支援。	地域経営 政策マーケティング シェアード・アウトカム コモンズ型評価
133	田村 文男	NPO法人密集住宅地区整備促進協議会(株)アイリスコーポレーション	専務理事 代表取締役社長	・行政では対応しきれず、民間事業者も参加しにくい密集市街地の小規模低・未利用地における再開発を実践。	密集市街地解消への取組
134	近兼 孝休	(株)琴平グランドホテル	代表取締役社長	・「伝統ある門前町に新たな息吹を吹き込み、躍動感ある”まちづくり”のカリスマ」 ・四国路の春を告げる風物詩の一つである『四国こんびら歌舞伎大芝居』を1985年(昭和60年)に復活し、全国ブランドとして現在まで継続的發展をさせてきた中心的人物。さらに、1997年(平成9年)には温泉掘削を成功させ、『こんびら温泉郷』をつくり、琴平地区の観光客の誘致に大きな役割を担っている。	観光振興
135	塚越 裕子	群馬女将の会	会長	・「旅館・ホテルに活気を取り戻す女将」カリスマ ・少子高齢化や旅行形態の多様化が進展する中で、旅人を受け入れる旅館・ホテルを女性の方で魅力あるものにするため、抜群のリーダーシップで『群馬女将の会』を発足させ、接客サービスの向上や観光PR等を連携して推進し、観光客の増加と、旅館・ホテルの活気の復活に努めた。	観光振興
136	鶴田 浩一郎	榊鶴田ホテル(ホテルニューツルタ)	代表取締役社長	・「大型温泉地再生のカリスマ」 ・宴会歓楽型ではない新しい別府の温泉地としての姿を創造することを目指し、別府温泉の各地区を束ねたイベントを実施する一方、各地区の自主性を育てることにより、各地区で独自の新しい企画が立ち上がり、観光客数も増加に転ずるなど、新しい別府温泉の活性化を先導した。	観光振興

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
137	寺内 昇	CANPAN 日本財団情報グループ	運営責任者 グループ長	・14年前からボランティアやNPOなど公益活動の支援を実施。 ・2005年から支援提供側と受ける側のマッチングや、担い手の横断的な情報交換を目的とした公益コミュニティサイトCANPAN(カンパン)を開設し運営中。	ICT・情報化 住民参加 資金確保 人材育成
138	寺沢 和博	市川市企画部ボ ランティア・NPO協 働推進課	主幹	・「1%支援制度」(NPOなどの活動に対して、個人市民税納税者が支援したい団体を選び、個人市民税額の1%相当額を支援する制度)の担当者。	NPO支援
139	寺谷 誠一郎	(前智頭町長)		・「日本の原風景に磨きをかけ、過疎地を観光地に変えたカリスマ」 ・かつて林業で栄えたものの深刻な過疎化に悩んでいた鳥取県智頭町において、住民の熱意と協力を引き出し、日本の原風景的な地域の自然そのものや古い建物、生活文化などに磨きをかけ、観光資源として活用するまちづくり、観光地づくりに成功した。	観光振興
140	土居 年樹	天神橋筋商店連 合会	会長	・「ほんまもの街商人(まちあきんど)街活かしのカリスマ」 ・土居氏は、早くから天神祭を生かした商店街の観光振興や空き店舗対策に取り組むほか、カルチャーセンター設置や修学旅行生の誘致、ストリートミュージシャンの育成など、ユニークな活動を展開している。また、地元の住民や企業、文化人、学者らの協力を得て、NPO法人天神天満町街(まちがい)トラストを設立。ホームページの開設やコミュニティー誌の発行を通じて、地域情報を広く発信。天神天満をより魅力ある街にするため、積極的な活動を行っている。	観光振興
141	東谷 望史	高知県馬路村農 業協同組合	代表理事	・「特産品(ゆず加工品)と共に村をまるごとブランド化に導いたカリスマ」(観光カリスマ) ・人口約1,200人という林業で生計を立てていた過疎の山村が、昭和56年からゆず加工品の販売をはじめ、平成15年には売上が29億円を超えるまでになった。東谷氏はこの加工品の開発、生産、販売に携わるとともに、観光地や温泉など村の情報をもとに売り込む作戦で、馬路村ブランドの確立に中心的な役割を担ってきた。この知名度アップにより、県内外から多数の視察や観光客が訪れるようになるなど、観光交流の面でも大きく貢献している。 ・2003年「地域産業おこしに燃える人」に選出。	観光振興
142	徳永 巧	真庭遺産研究会	事務局長	・「美しい自然や文化遺産等をグリーン・ツーリズムに結び付けるカリスマ」 ・県北部の9町村を含む真庭地域において、失われつつある農村固有の自然や風景、歴史遺産にスポットライトをあて、その保全と活用方法について検討することを目的に「真庭遺産研究会」を設立し、その事務局長としてこれら自然資源等を活かしたグリーン・ツーリズムやエコツーリズムを推進し、真庭地域の景観保全や観光振興に貢献している。	観光振興
143	刀根 浩志	和歌山ほんまもん 体験倶楽部	事務局	・「本物志向の田舎体験型観光創出のカリスマ」 ・自然豊かな農山漁村に訪れ、ほんものの田舎を体験したい都市住民のニーズに応え、各地域の体験インストラクター等の人材育成に取り組むとともに、県の推進する体験交流型観光の充実を図るため、民間有志により設立された「和歌山ほんまもん体験倶楽部」の事務局として体験プログラムのコーディネートや体験受け付けの窓口などを担い、農山漁村部の潜在的な価値の再認識等による体験交流型観光の定着を図るなど、地域の活性化に貢献している。	観光振興
144	富永 一夫	NPO法人フュー ジョン長池	理事長	・主に多摩地域(長池公園)の住民に対して、暮らし全般に関する事業を実施。地域活性化支援、住宅管理支援等暮らし全般に関する事業を実施。 ・平成13年7月からは八王子市から委託を受け、八王子市長池公園自然館の管理運営を実践。	ICT・情報化 ニュータウン問題 住民参加 環境
145	中川 満	野外博物館合掌 造り民家園	前事務局長	・「伝承文化と生活体験を観光資源にするカリスマ」 ・世界遺産白川郷(荻町集落)と隣接する「野外博物館民家園」において、村外の新しい視点から、それまでオフシーズンであった「冬季の白川郷」の観光化、古き伝承文化と農村風景の再現、自然観察や農業体験などのイベントを実践することで、平成14年度に昭和47年開業以来最高の入り込み客数を実現するとともに、村内各施設の運営や住民の観光に対する考え方を考えるなど大きな影響を与え、白川郷の魅力を再発見し観光振興等に貢献している。	観光振興
146	中谷 信一	南砺市	利賀行政センター 長	・「そばによる国際交流とむらおこしのカリスマ」 ・観光資源の乏しかった過疎の村においていち早く都市農村交流に取り組み、「そば」によるむらおこしとそばの原産地であるネパール王国ツクチェ村との交流を通じて独自の観光資源づくりを行い、自らも自宅の一部を改造した玩具博物館を開設するなど村の活性化と観光振興に大きく貢献している。	観光振興
147	長野 基	跡見学園女子大 学 マネジメント学部 生活環境マネジ メント学科	講師	行政学・まちづくりを専門分野とし、行政統計情報と地域経営についてレポートするなどしている。	分野横断的課題
148	中村 隆行	NPO法人ひろしま NPOセンター	常務理事・事務局 長	・多様なNPOを支えるために、資金集めや配分を行うNPOサポート機能や、政策提言、人材研修を実施する当センターの設立に関わり、設立とともに現職に就任。 ・NPO等の活動を支援するため、ろうきんNPO寄付システム、ひろしまNPOサポート倶楽部、ひろしまNPO活動奨励費という、市民、企業からの寄付金による独自の活動資金支援システムを運営。	NPO支援 資金助成支援
149	中山 勝比古	(株)日間観光 ホテル	代表取締役社長	・「漁業を活用した離島観光のカリスマ」 ・「見る観光」から「参加する観光」へと変化しつつある観光客のニーズに応え、漁業と観光の融合にいち早く取り組み、アイデアを実行に移して、離島ながらも多くの観光客の心をつかむことに成功した。	観光振興
150	西下 はつ代	(株)ブルーベリー オガサ	代表取締役	・「ブルーベリーを活かしてゼロから農業を始め、『観光農園』を創設したカリスマ」 ・農業に憧れ、夫の自動車部品製造業の片腕から老後も楽しく働ける農業の世界へ転身し、観光農園「ブルーベリーの郷」を開園。ゼロから始めた農業を「観光農園」として施設を充実させる他、苗木の販売、オリジナル商品の開発を行うなど地域観光の目玉とするなど、地域の活性化に貢献している。	観光振興
151	西田 穰	㈱地域計画研究 所 NPOまちづくりに 夢をつなぐ市民の 会(まちづくり工房 まち夢)	代表取締役 理事	・まちづくりコンサルタントとして、市民参加型の都市計画マスタープランや地区まちづくり計画の立案に長年従事 ・沖縄や地方都市において、中心市街地活性化や様々な地域おこし計画の立案等に参画(委託調査、国土庁アドバイザー及び自治労地域活性化プロジェクトなど) ・(NPO)環境自治体会議環境政策研究所の専門調査員(自転車のまちづくり、省エネルギーなど)。大都市の放置自転車を地方都市に寄贈し、地域おこしを実現(杉並区→二ツ井町)など	住民参加 中心市街地活性化 地域おこし 自転車のまちづくり 省エネルギー

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
152	西村 肇	(株)西村屋	代表取締役	・「伝統ある温泉街を常に活性化させるカリスマ」 ・旅館経営者として、また町のリーダーとして、先人から受け継いで湯情緒あふれる町並みと共存共栄の精神を守りつつも、歴史と伝統に甘えることなく、イベント運営の改革、国際交流の促進、まちの改築、城崎ブランドの確立・発信などに積極的に取り組み、「元気な町一城崎」を常に維持している。	観光振興
153	根本 祐二	東洋大学大学院経済学研究科	教授	・2006年まで日本政策投資銀行において地域再生プロジェクトの企画及びフィナンスに携わる。代表案件としてユニバーサルスタジオ、家守(建物コンバージョン)事業、歌舞伎町ルネッサンスなど。 ・その後東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻開設を機に教授就任。国土審議会専門委員、各地のプロジェクトの審査委員等を務める	地域再生 公民連携
154	野田 文子	内子フレッシュパーク「からり」	取締役	・「農産物直売の実践による都市住民との『食』と『農』の交流カリスマ」 ・生産者自身が楽しみながら、消費者に農村の楽しみを提供する都市と農村との交流拠点「からり」の取締役として、農村女性による農産物直売による都市住民との交流の草分け的存在である。生産者の顔が見える安全・安心・新鮮な農産物を追求し、リース教室ツアーなど年間をとおした「食」と「農」の農業体験活動を実践するとともに、農業ベンチャーを対象とした研修等の講師としても積極的に活動し、農村女性起業家のモデルとして多方面で活躍している。	観光振興
155	萩本 博幸	財団法人長野県テクノ財団	理事長	産学官連携に基づく、地域の活性化を推進。 ・平成18年度まで、文部科学省「知的クラスター創成事業」の長野・上田地域の知的クラスター本部長を兼務し、現在、強力なリーダーシップを発揮してクラスター創成戦略や数値目標を掲げて事業を推進している。 ・第3回 産学官連携功労者表彰(平成17年度)において、文部科学大臣賞を受賞。	産業育成 人材育成 分野横断的支援
156	白田 典子	(有)良品工房	代表	(株)電通、マーケティング会社で商品開発に携わる。1994年、(有)良品工房を設立。食品流通の現場を初めて経験するが「消費者不在」を痛感。2001年、買い手の声をつくり手(地方の中小食品メーカーを中心とする)や売り手に伝え、お互いの誤解や勘違いをひもとく活動、「いいものプロジェクト」を推進している。	地域中小企業サ ポーター
157	長谷川 一彦	嵯峨野観光鉄道(株)	代表取締役社長	・明治時代の鉄道線を観光に再生したカリスマ ・歴史的景観が多く残る京都において、常に新鮮さを求める観光客の新しい「期待」に応えるべく、自ら駅業務から線路沿線の雑木整理、植樹という重労働をもこなし、地道な努力とユニークな発想で、「嵯峨野・トロッコ列車」という京都のひとつの魅力を創出し、地域の観光振興にも尽力している。	観光振興
158	服部 敦	地域再生推進室	参事官補佐		
159	埴 吉七	(財)茨城県開発公社 国民宿舎鶴の岬	支配人	・「従業員の高いサービスで国民宿舎利用率全国第1位を15年間継続するカリスマ」 ・公共の宿泊施設は、低価格だがサービスや食事のレベルが低いと言われていたころ、埴氏は職員とともに心のこもったサービスをお客様をもてなすことにより、公共の宿泊施設のイメージを一新し、魅力ある施設へと変貌させ、それを継続することに成功している。	観光振興
160	林 敏幸	長崎ランタンフェスティバル企画幹事会	幹事長	・「長崎ランタンフェスティバル」を仕掛け、今日の成功に導いたイベントのカリスマ ・林氏は、毎年長崎新地中華街で行われていた中国の「春節祭」を、より本物志向で、観光客も楽しめる大規模なイベントにするために、中華街関係者などを説得し、自ら中国にランタン(提灯)を買い付けに行くなどして、1994年(平成6年)に第1回目の「長崎ランタンフェスティバル」を開催した。以来、ランタンフェスティバルは80万人を集客する九州を代表するイベントに成長し、林氏は現在も企画幹事会幹事長として中心的役割を担っている。	観光振興
161	林 泰義	NPO法人玉川まちづくりハウス(1991-) 都市再生戦略チーム(2005-) 東京コミュニティ・パワーバンク(2003-) (元千葉大学客員教授(1998-2002))	運営委員 委員 理事	・まちづくりプランナー。 ・住民参加による自治体条例・自治体計画等の策定・運営支援。 ・住民主体の地域再生・協働のまちづくり・地域力向上のため、世田谷区を始め、全国各地の住民活動を支援。 ・日・米・英・台湾・韓国等のNPO等活動及び制度の実態調査。NPO等の運営支援。 ・市民自身の手によるバンク創立・運営支援。 ・新潟・島根のコミュニティ・ビジネス起業支援。	地域再生・協働のまちづくり NPOの運営 市民のバンク設立・運営 コミュニティ・ビジネス起業 地域力(社会関係資本)充実
162	原田 弘子	(コンサルタント)		中心市街地商業活性化アドバイザーとして、主として中国地域の中心市街地活性化協議会等に対するアドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
163	平井 利長	日本貿易振興機構(ジェトロ)企画部	事業推進主幹(国内担当)	・日本貿易振興機構(ジェトロ)にて、35カ所の国内拠点の事業調整等を担当。地場産品の輸出促進、外国企業誘致、海外との連携を通じた地域産業育成等について、各地の取り組み事例の紹介や、国内勤務経験にもとずくアドバイスを提供可能。	国際経済交流 貿易・投資・アライアンス 産業育成・企業誘致
164	平田 克明	(有)平田観光農園	代表取締役	・「四季を通じて多角的な観光農園を展開する農村交流のカリスマ」 ・県職員退職後、農園10haを継承し顧客主体の観光農園を設立、10種類以上の果樹を栽培し四季を通じて周年型の「観光農園」で果物をテーマとした都市農村交流を実践し、園内で採れた新鮮な果実、地元の野菜を用いた特色ある西洋料理店、田舎料理店等を展開するとともに、地域と協力した農産物加工品を積極的に販売するなど地域に密着した事業を展開している。	観光振興
165	平野 暁臣	株式会社現代芸術研究所	代表取締役	イベントプロデューサー。岡本太郎が創設した現代芸術研究所を主宰し、イベントやミュージアムなど「空間メディア」の領域で多彩なプロデュース活動を行う。近作に「リスボン国際博覧会館」「川崎市岡本太郎美術館」「六本木ヒルズアリーナ」「Japan Design 2006, Bangkok」「明日の神話」再生プロジェクトほか。	地域中小企業サ ポーター
166	福島 信行	(前白馬村長)		・「活力とにぎわいの村づくりカリスマ」 ・これまで白馬村の観光の主軸となっていたスキー観光の他に、優れた景観や農村資源、地形的条件等を活かした通年型・滞在型観光地としての白馬村の観光振興に尽力している。また、白馬村の楽しさを提供できる名人を登録し、旅行者の案内や引率に参加してもらった「白馬マイスター制度」を誕生させ、新たな手法で白馬村滞在の魅力を提供している。	観光振興

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
167	福田 興次	株式会社福田農場ワイナリー	代表取締役社長	・地域産業おこしに燃える人 ・観光カリスマ(観光農園による地域づくり・観光振興のカリスマ) ・観光農園経営とあわせて、地元特産である甘夏みかんの加工品の開発・販売、自家生産・地域の特産品にこだわった食材の提供、地ビール製造・販売を行い、年間20万人を超える観光客等の誘致を実現。誘客効果と全国販売を行う地元ブランドの特産品により水俣地区の活性化・イメージアップに多大な貢献をしている。 ・観光物産協会エコみなまた会長として、地域活性化、地域内交流に取組む。平成16年「全国地域づくり推進協議会会長賞」、平成17年「第34回日本農業賞特別賞」、平成18年「ふるさと企業大賞」総務大臣表彰。	ICT・情報化 商店街振興 農山漁村活性化 産業育成 観光振興 地域文化振興 環境 雇用創出 人材育成 国際交流 地域間交流 共通・分野横断的課題
168	福留 強	聖徳大学生涯学習研究所 聖徳大学人文学部生涯教育文化学科 NPO法人全国生涯学習まちづくり協会	所長 教授 理事長	国立社会教育研究所、文部省生涯学習局で長年にわたり、生涯学習の推進、社会教育の指導に携わる。 生涯学習を通じた地域振興、まちづくりを指導。	生涯学習 地域振興 まちづくり
169	福間 敏	島根県斐川町役場		地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
170	藤 ジニー	旅館藤屋	女将	英語の派遣指導教師助手として山形赴任中に、350年続く銀山温泉の老舗旅館・藤屋の七代目主人と結婚し、女将となる。日本の美しさと伝統、料理、日本語の素晴らしさなどを訴える。	地域中小企業サポーター
171	藤井 一郎	(株)みどり合同経営(香川県)	取締役	・中小企業診断士。(株)東京三菱銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行)融資部調査役を経て退社後、現在は主に中小企業へのコンサルティングを行う。 ・特に中小建設企業に対する「経営戦略・マーケティング戦略策定」「工事原価管理」「銀行との付き合い方」の指導に定評がある。国土交通省「建設業経営支援アドバイザー」。	建設産業再生
172	藤井 信雄	四日市市市民文化部(兼)市民文化課	次長 課長	・市民活動団体と事業者、行政とが協働で、安心・安全なまちづくり、個性あるまちづくりを進めるとともに、中間支援NPOの育成を図る。 ・事業者と行政との協働・連携により、産業再生を図る。 ・平成15年4月「産業再生特区」認定・平成17年7月「市民活動による地域再生計画」認定	住民参加 安心・安全 地域文化振興 産業育成
173	富士川 一裕	(株)人間都市研究所 NPO法人日本都市計画家協会 熊本まちなみトラスト	代表取締役 理事 事務局長	・熊本市内にある大正8年に建造された「旧第一銀行社屋」の保存・活用運動を皮切りに、「記憶の継承」を基本コンセプトに据え、現在も多様な活動を展開。 ・15年度全国都市再生モデル調査において、熊本市河原町の活性化に取り組み、荒廃した繊維問屋街を建て替えてではなく、河原町を好きだと思ふ若者による新規出店を促進する形で再生。 ・九州各地でワークショップや協議会方式による中心市街地再生計画の立案支援。	住民参加 中心市街地活性化 商店街振興 まちなみ・景観整備 交通
174	藤倉 潤一郎	プラットフォームサービス(株) 全国デジタル・オープン・ネットワーク事業協同組合	代表取締役 顧問	数多くのオンライン上のビジネス・プラットフォームの開発・運営を手掛け、SOHO・ITベンチャーの共同化、成長支援などに先導的な役割を果たす(1996-2006年)。不活性な公的施設をまちづくりのプラットフォームとして再生し、産業振興・コミュニティ振興など官民協働による地域経営の展開を総合的に支援するプラットフォームサービスの開発・提供を行っている。(2004年～)	ICT・情報化 住民参加 産業育成 分野横断的支援
175	藤崎 慎一	(株)地域活性化プランニング	代表取締役	・企業コンサルを主業務とする一方、そのノウハウで全国各地の地域活性事業を实践。「まちづくりはひとつづくり」をキーワードに「よそ者、わか者、ばか者」を活用した住民参加型の自立型地域活性を目指す。 ・また地域独自の資源を再発見でき、マスコミから一般読者まで幅広く支持される国内初のロケ地情報誌「ロケーションジャパン」(3.5万部)を発行。	人材育成 ロケ地誘致 住民参加 観光振興 地域間交流 地域文化振興
176	藤村 望洋	早稲田商店会(新宿区)エコステーション事業部 NPO法人東京いのちのポータルサイト	部長 理事	・早稲田商店街でラッキーチケット回収機を用いた地域リサイクル拠点「エコステーション」を開始し、「資源も客も回収する仕組み」として成功。全国80近くの商店街に波及。全国ネットワークで地域特産物の情報物流システムを構築。観光を含めた集客交流の地域活性化を各地で指導。・全国の商店街と震災時の支援(救援物資と疎開)のネットワークを構築。・地震に備えたまちづくりにも取り組んでおり、住宅の耐震補強を進めるための取組を各地で展開。	商品開発 地域再生まちづくり 海と山と町の全国ネットワーク 地域内のコラボレーションによる環境リサイクル 防災まちづくり 中心市街地活性化 情報化 商店街活性化 農山漁村活性化 観光
177	藤原 一夫	藤原コンサルティング(神奈川県)	代表	・東急建設(株)理事を経て退社後、コンサルティング会社を設立。東京都及び神奈川県の中小企業再生支援協議会専門委員を務める。 ・建設業実務に精通した専門家であり、中小建設業の経営支援実績多数。国土交通省「建設業経営支援アドバイザー」。	建設産業再生
178	二神 能基	NPO法人ニュースタート事務局 株式会社スロワーク	代表 代表取締役社長	・全国を対象としてニートの就労支援を行うNPOを主宰。 ・ニートが人との接し方を学び、繋がりをつくり、「世の中をよくする仕事、生きることが楽しくなる働き方」で働ける社会を目指す。 ・平成17年度全国都市再生モデル調査ではニートが参画する形で団地の空き店舗再生を試みた。 ・世界88カ所にどんな人でも誰かの役に立ちながら、心豊かな社会の実現を目指す「雑居福祉村」をつくる活動にまい進。	ニート・引きこもりなどの青少年対策 地域をひらく、社会をひらく地域活性化 人材育成派遣

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
179	船木 上次	萌木の村(株)	代表取締役社長	・「開拓魂のカリスマ」 ・清里の急激な開発と没落を全て目の当たりにしながらも、清里を本物のホスピタリティーと感動を与えることができる地域文化のある観光地にするべく、人材育成やパレエコナートの開催等地道に独自の活動を続け、流行に流されず清里の活性化に貢献した。	観光振興
180	傍士 銃太	日本政策投資銀行地域振興部	審議役	・政投銀まちづくり三人衆の一人 ・ご当地ナンバーの「仕掛け人」 ・Jリーグ理事 ・和歌山貴志川線の再生 ・青森ツーリズムアドバイザー	地域の意識の自立 スポーツとまちづくり 総合型地域交通システム 観光の基本戦略
181	星野 佳路	(株)星野リゾート	代表取締役社長	・「エコリゾート経営のカリスマ」 ・28万坪の広大な敷地を生かしたゲストの満足度を高める高質のサービスを目指し、専門知識を持ったエンターテイナーが案内する有料の自然体験ツアーを企画して多くのリピーターを集めるなど、リゾートの新しい経営戦略を打ち出した。	観光振興
182	細尾 勝博	兵庫県多可町観光アドバイザー		・都市農村交流を中心とした観光産業による地域づくりのカリスマ ・観光資源に乏しい中山間地域の環境を逆手にとり、都市住民向けの滞在型市民農園を企画。卓越した運営ノウハウを駆使することにより、都市住民と地域住民の交流を促し定住化へ結びつけるなど、地域の活性化に貢献した。	観光振興
183	堀池 喜一郎	NPO法人シニアS OHO普及サロン・ 三鷹 広域関東圏コミュニ ティビジネス推 進協議会 どこでも竹とんぼ 教室を！リーダー 会	顧問 幹事 幹事	・三鷹市を中心に、シニアの地域ビジネス参加支援、シニアによるシニアのためのPC教室、PCシニアアドバイザーの育成等を実践。行政、企業との協働事業を多数運営。 ・各地のコミュニティビジネス起業家へのノウハウ、支援策の提供 ・工作教育を通じた学校・地域の世代間交流を実践	ICT・情報化 コミュニティビジネス 産業育成 人材育成・活用 eラーニング 学校支援 シニア支援 NPO経営
184	間島 正秀	法政大学大学院 政策科学研究科 法政大学社会学部	教授 教授	・公共政策、地方自治、行政学専攻 ・都市内分権、広域行政、行政改革などに関心がある。これまで都市自治体における地域自治区や指定管理者制度などの基本枠組みづくりに関する研究会の委員などを務める。	地方自治制度 都市内分権 地域政策 行政改革
185	益本 圭太郎	(財)消防科学総合センター	常務理事	・地域防災の推進に関すること ・全国の市町村長や職員、地域住民等を対象とした実践的な災害対応に関する知識、ノウハウ、スキルに関すること	住民参加 安心・安全
186	松井 利夫	株式会社アルプス 技研	顧問	地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
187	松浦 宣秀	藻塩(もしお)の会	代表	・瀬戸内海の古代の塩づくりを解明した「藻塩のカリスマ」 ・古代の塩づくり方法を解明し再現することにより、人気商品「海人(あまびと)の藻塩」の誕生に貢献するとともに、塩づくり体験を島ぐるみの取組みに広げ、町の知名度向上、雇用の促進、地場産業の育成など、多様な効果を生み出し、古代の塩づくりを通じた地域振興・観光振興の中心として活躍している。	観光振興
188	松浦 忠雄	(コンサルタント)		中心市街地サポートマネージャーとして、主として東北管内の中心市街地活性化協議会等に対し、活性化に資する各種アドバイスを実施。	中心市街地活性化 商店街振興
189	松田 一敬	北海道ベンチャー キャピタル(株)	代表取締役社長	・地域産業おこしに燃える人 ・わが国初の地域密着独立系VCである北海道ベンチャーキャピタル(株)を設立。サブポロノバレーの推進、北海道におけるバイオクラスターの形成促進等を支援。また、(株)HVC戦略研究所を設立し、地域のクラスター政策、新エネルギー政策、産学連携、知財の事業化、自治体事業の民営化、地域おこしなどを提言並びにコンサルティングを展開している。 ・中小企業政策審議会地域中小企業政策小委員会委員。	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流 産学連携 地域おこし テクノロジーインキュ ベーション 地方の自立
190	松田 宏人	日本政策投資銀行プロジェクトファイナンス部	参事役	・地域再生プロジェクト・官民連携プロジェクト・社会基盤整備プロジェクトへのアドバイス、事業化支援を実践。 ・工場立地・企業誘致へのアドバイス、地域産業振興支援への取組みを実践。 ・企業再生・事業再構築・成長投資へのアドバイス、再生・成長支援を実践。 ・国土審議会専門委員、関連分野の各種委員等に就任。	官民連携 社会基盤整備 地域活性化 地域金融 企業誘致 産業育成 事業再生
191	松津 迪夫	烏山駅前商店街 (世田谷区)	専務理事	・商店街スタンプ事業の老舗と言われる『烏山方式(ダイヤスタンプ)』を実践。 ・近年は、烏山駅周辺の放置自転車整理や清掃活動等のボランティア活動に対しスタンプを発行し、スタンプ事業をまちづくりとリンクする試みを実践。	商店街振興「コミュニ ティカード」 住民参加
192	松場 登美	(株)石見銀山生活 文化研究所	取締役所長	・「わらしべカリスマ」 ・「それぞれの夢を大切に、個人が光り、その結果、町も光る」との発想からユニークな企画を次々と繰り出し、町が活性化するとともに、地域住民のふるさと意識を高めた。また、自らデザイン・販売する生活雑貨は、石見銀山の生活文化を発信し、観光客の増加に貢献した。	観光振興
193	松原 明	NPO法人シーズ・ 市民活動を支える 制度をつくる会	事務局長	・市民活動を支える税制・制度などの環境整備の取組を推進。 ・市民活動に対する寄付集めのノウハウ支援を実施。 ・講習・研修等を通じた市民活動分野における人材育成を実施。	ICT・情報化 住民参加 資金確保 人材育成

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
194	松村 拓也	世田谷ものづくり学校 せたがやかやつく 株式会社なのに	校長 プロジェクトリーダー 父親なのに平社員	世田谷ものづくり学校:世田谷区立中学校の民間による廃校活用プロジェクト。教室を企業やクリエイターに転貸し、施設内をすべて公開しながらビジネスと社会をつなぐ。創業支援やスクーリング事業などもあわせて展開。 せたがやかやつく:世田谷区産業振興公社内のプロジェクト。起業ノウハウを持たないすべての区民に対し、「地域に関わる価値」を説き、あらゆる起業をゼロから支援する。	目的と手段 地域ビジネス 起業マインド 価値創出 夢とビジョン
195	政所 利子	榊玄	代表取締役	東京都生まれ。PR誌「メイト」編集長、コスチューム(クリスチャン・ティオール)、プロダクトデザイナー、空間計画及び環境計画プランナー等を経て、1988年プロフェッショナルな女性の集団 株式会社 玄を設立。浅草「六区街の再生」等まちづくり・総合計画・環境計画及び設計業務をはじめ、全国の各種地域産業振興、商工業活性化策、事業経営戦略、地域ブランド等の研究・調査が主要業務。	地域中小企業サポーター
196	三浦 研	大阪市立大学大学院生活科学研究科・生活科学部	准教授	・大学において、特養、グループホーム、小規模多機能サービス、認知症に配慮した環境計画など、環境行動理論に基づく高齢者施設や住宅の計画・設計・研究、および視覚障害者の歩行特性など、ユニバーサルデザインの街づくりについて実践および研究に取り組む。 ・平成15年日本建築学会奨励賞(論文)	少子高齢化 高齢者施設 認知症 ユニバーサルデザイン 街づくり
197	三上 亨	NPO法人グリーンエネルギー青森 NPO法人NPO推進青森会議 あおもりコミュニティビジネスサポートセンター	常務理事・事務局 長 常務理事 所長	・青森県鰹ヶ沢町で市民出資を募り、風力発電施設を建設・運営。 ・まちづくり活動を支援するための、鰹ヶ沢マッチングファンドを創設。 ・津軽鉄道を軸とした地域活性化の取組を推進。	住民参加 パートナーシップ 資金確保 コミュニティビジネス
198	溝口 薫平	榊由布院玉の湯	代表取締役会長	・「『心の活性化』のカルスマ」 ・観光地において自然保護を主張したさきがけ的存在であり、自然景観を大切にした温泉保養地づくりに成功。また、町内の情報交換の促進などにより、住民のまちづくりへの参加意識の高揚、地域の活性化に貢献した。	観光振興
199	御園 慎一郎	地域再生推進室	内閣審議官		
200	蓑谷 穆	(社)飛騨高山観光協会	会長	・「観光都市を継続的に発展させるカルスマ」 ・地域経済における観光産業の重要性に着目し、住民の参画意識を持った観光事業の推進に努め、飛騨高山観光協会の会長に就任し官主導の組織から民主主導となる地域密着型の観光協会の運営に改め、社団法人化による民間主導の観光協会を実現させた上で、観光魅力を継続・維持・発展させる取り組みに努めている。	観光振興
201	宮浦 宜子	特定非営利活動法人芸術家と子どもたち		NPO法人芸術家と子どもたちスタッフとして、閉校校舎を転用した「にしがも創造舎」(豊島区西巢鴨)を拠点に、子どもを中心とした地域の方々と協力しながら進めていく「アート・プロジェクト"ACTION!"」などを行っている。	住民参加 地域文化振興
202	宮城 治男	NPO法人ETIC	代表理事	93年創設。新しい事業づくりに挑む起業家型リーダーを育成・輩出し、チャレンジが生まれる地域づくりに取り組む。これまで120名以上の起業家を輩出している。04年より、経済産業省の支援により、地域を担う未来の人材(若者)と、地域企業による新たな挑戦をコーディネートする「チャレンジ・プロデューサー(CP)」を支援するチャレンジ・コミュニティ創成プロジェクトを実施。3年間で250社600人の若者と企業をコーディネートし、大都市から農山漁村まで全国30地域で展開。大学等地域の教育現場とも連携し、地域における次代の人材育成への基盤づくりも手がける。CPを目指す方向けに、個別相談会や資質向上のスクールを実施するほか、ノウハウ・各種フォーマットの提供、集合研修、事業コンサルティングなどを行なう。06年、JNBC第1回ニッポン新事業創出大賞・経済産業大臣賞 受賞。	教育 青少年対策 創業支援 NPO支援 雇用創出 産業育成 農山漁村活性化
203	三宅 曜子	榊クリエイティブ・ワイズ	代表取締役	マーケティングコンサルタントとして、中小企業支援及び指導、商業活性化事業、まちづくり事業等、顧客のニーズを的確に捉えた市場開発とアプローチ手法等、幅広い分野におけるマーケティング全般のアドバイスを全国各地で手がける。特に広島県熊野町の化粧筆のブランド化に深く関与。	地域中小企業サポーター
204	宮田 静一	大分県グリーンツーリズム研究会	会長	・「農村民泊さきがけのカルスマ」 ・普通の農家に会員を泊め、農村の生活文化を体感してもらう会員制農村民泊の生みの親であり、景観や自然環境を考える「リバーサイドウォーク」や農村の伝統文化を見直す「全国羹(わら)こずみ大会」、グリーンツーリズム普及に向けた各種フォーラム開催などのイベントにも積極的に取り組み、行政との連携による様々な活動が独自の会員制農村民泊「安心院方式」を定着させ、農村住民との交流を拡大させた。	観光振興
205	宮西 悠司	真野地区まちづくり推進会(神戸市)		・昭和40年代から公害反対運動に端を発する住民運動に取り組み、50年代には独居老人向け入浴サービス、給食サービス等を行政に先駆けて実践。 ・阪神大震災の際には、震災後3日目に現地対策本部を設置し、迅速な復興活動に取り組んだ。 ・真野地区のまちづくり活動の知恵袋として活躍中	住民参加 商店街活性化 まちなみ・景観整備 少子・高齢化 地域文化振興 安心・安全
206	村上 一成	新建新聞社まちづくり新聞	編集長	・新建まちづくり新聞は、環境・行政財政改革・中心市街地活性化・市民事業・新エネルギー・21世紀産業などのまちづくりに関わる先端事例を取材し、国の動き、専門的な見解、住民の目線などを併せて紹介する新聞(平成15年度創刊)。 ・村上氏は全国のまちづくり事例に精通。	ICT・情報化 中心市街地活性化 商店街振興 まちなみ・景観整備 交通 農山漁村活性化 産業育成 観光振興 環境 社会基盤整備
207	村上 孝子	(前)NPO法人北町大家族理事(長)		・練馬区ニュー北町商店街の女性が、商店街会館(既存ストック)を活用して子育て支援事業や高齢者のデイサービス事業を実践。	商店街振興「テーマは愛」 少子高齢化
208	村坂 有造	(有)村坂印刷	代表取締役会長	・「『そば(相場)』を守る伝統が息づくまちづくりのカルスマ」 ・まちづくりのリーダーの養成や住民の自覚を高めるためのイベント企画や組織づくりを行うとともに、周りとの調和を大切に、それを維持しようとする「そば」という町の伝統を生かし、飛騨の匠の技が息づく伝統的な町並みづくりを主導し、「癒しのふるさと」として集客に成功した。	観光振興

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
209	藻谷 浩介	日本政策投資銀行地域振興部	参事役	<ul style="list-style-type: none"> ・政投銀まちづくり三人衆の一人。専門は、地域経済、中心市街地活性化。 ・小笠原と三宅島を除く日本全国すべての市町村を自費で踏破し、地域の実情に詳しい。 ・年400回の講演で全国を飛び回る。 	中心市街地活性化 商店街振興 まちなみ・景観整備 交通 農山漁村活性化 産業育成 観光振興 少子・高齢化 社会基盤整備 交渉術 マーケティング 企業経営戦略 共通・分野横断的課題
210	森賀 盾雄	日本地域資源学会 日本ミュージアム・マネージメント学会	理事 理事	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域資源を活かしたオープン博物館都市づくりのカリスマ」 ・日本青年会議所地域主権委員会アドバイザー、農水省中山間地域「地域興しマイスター」などを歴任、全国各地で「地域づくり・産業起こし」関係での講演・アドバイスをやってきた。 ・都市そのものの形成史が観光客への売り物となることに着目し、市民団体を組織しイベント等バラエティに富む取り組みを実施。 ・単なる「名所旧跡の観光」ではなく知的満足度を高めた「知識を付加した旅行」「体験できる旅行」を実現するべく市民が中心となって参加し、「地域づくりと一体になった受け地型ツーリズム」の仕組みを推進。 ・特に、「地域資源を掘り起こし・磨くワークショップ」「創造的発想法のお話」「全国的な人脈ネットワークを活用しての支援」などを進める。 	観光振興
211	谷津倉 智子	Funnybee 株式会社 NPO法人「さなぎ達」	代表取締役 理事	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市寿町でNPO法人「さなぎ達」のたちあげに従事。大学講師、社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員、日本ボランティア学習協会理事などを通じ一貫して社会問題に取組む。 ・2004年日本青年会議所「人間力大賞」厚生労働大臣奨励賞受賞。 	雇用創出 国際交流 地域間交流 少子・高齢化
212	山内 義則	銀座通り商店街振興組合(瀬戸市)	理事長	<ul style="list-style-type: none"> ・シャッター通り商店街に、学生を受け入れ、商店街の人たちのやる気を引き出した実績あり。 	中心市街地活性化 商店街振興 大学地域連携
213	山岸 秀雄	特定非営利活動法人NPOサポートセンター 法政大学大学院	理事長 客員教授	<ul style="list-style-type: none"> 1993年に日本で最初のNPO支援組織NPOサポートセンター(NPO推進フォーラム)を設立、NPOと大学の連携を軸とした「産官学民」地域プラットフォーム活動を提唱し、多様な地域連携を実現している。 	NPO活動 地域振興
214	山口 章	日本赤十字社 原町赤十字病院		地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
215	山口 昭	(株)木の城たいせつ	取締役会長	<ul style="list-style-type: none"> ・『住んで良しの観光地づくり』のカリスマ ・「北海道」にこだわり、北海道の自然の木だけを使った住み良い住宅を供給して、冬が厳しい北海道を「住み良い」地域にすることを提案し、宿泊体感できるテーマパークを開設するなど、『バイオ・リージョン』の考え方を徹底して、住宅を通じた観光資源づくりを実践した。 	観光振興
216	山下 雅司	(有)ヤマイチ山下総業	代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地サポートマネージャーとして、主として北海道内の中心市街地活性化協議会等に対し、活性化に資する各種アドバイスを実施。 	中心市街地活性化 商店街振興
217	山田 伸顕	財団法人大田区産業振興協会	事務局長	地域産業おこしに燃える人	ICT・情報化 商店街振興 産業育成 雇用創出 人材育成 観光振興 国際交流 地域間交流
218	山本 訓三	立誠自治連合会(京都市)	会長	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校が廃校になったことにより、周辺に風俗店が溢れるようになった京都木屋町で、廃校の再活用により、風俗店の新規出店を抑制 ・街の魅力回復を目的とした放置自転車対策や夜間パトロール等を実施。 	安全・安心 交通 住民参加
219	山本 麗子	ドーン利用促進事業共同体(財)大阪府男女共同参画推進財団とNPO・ZUTTOによる共同体 (前・宝塚NPOセンター事務局次長)	利用促進ゼネラルマネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の新しい働き方としてコミュニティ・ビジネスに着目し、阪神間でコミュニティ・ビジネス交流会を立ち上げ事務局を務めた。 ・平成9年からは(特)めふのお家(デイサービスハウス)、翌年には宝塚NPOセンターの設立に加わり、理事・事務局次長として、宝塚エコマネー運営やまちづくりゼミでまちづくり情報の整備等に取り組む。 ・平成18年4月より現職。 	NPO・協働 コミュニティ・ビジネス 指定管理者
220	横石 知二	(株)いりどり	代表取締役副社長	ICTを活用した地場産業の振興育成 <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県勝浦郡上勝町における「ICT」を活用した地域活性化の取組の経験 ・防災無線を利用したファックスによる受発注とインターネットによる売上実績・出荷予測分析に関する情報提供など、情報通信技術(ICT)を活用した地域活性化の先進事例の紹介 ・産業育成カリスマの1人 	ICT・情報化 農山漁村活性化 産業育成 雇用創出

No.	氏名	所属	役職	取組概要	キーワード
221	吉井 靖	㈱うぶすな NPO法人国際創造者連盟 NPO法人ユニバーサルイベント協会 日本イベントプロデューサー協会 (独立行政法人中小企業基盤整備機構地域ブランドアドバイザー・市街地活性化アドバイザー)	代表取締役 理事長 理事 理事	インターネット上でブログや動画配信を活用し、佐渡島の知られざる魅力をアピールする地域活性化施策「佐渡、お笑い島計画」の企画及び運営を手がける。平成18年、同計画の運営などを行う新潟県初のLLC「合同会社S.M.A.I.L.」を設立。地元の雇用創出にも取り組んでいる。	ICT・情報化 産業育成 雇用創出 観光振興 地域文化振興
222	吉崎 博章	(株)吉崎工務店	代表取締役社長	・「観光による離島振興を進めるカリスマ」 ・自然や伝統文化などの観光資源がありながら島民意識や遠隔地であることなど様々なネックのあった隠岐において、工務店の経営者という観光産業とは異なる立場で、青年会議所の設立や交通機関の改善などに取り組んでいる。	観光振興
223	吉田 敦也	徳島大学	教授	ICTを活用した地域の課題解決と活性化 ・徳島県における「ICT」を活用した地域の課題解決と地域活性化の取組の経験 ・地域課題の解決支援や地域活性化に向けて、情報通信技術（ICT）を活用した地域活性化、人材育成の先進事例の紹介 ・地域創世カリスマの1人 (NPOいきいきネットとくしま理事長、NPO徳島インターネット市民塾副理事長)	ICT・情報化 人材育成 住民参加
224	吉田 修	(有)農業法人モクモク	代表取締役専務	・「企業の農業経営による地域ブランド、農村交流ネットワーク構築のカリスマ」 ・「おいしさと安心の両立」(自然・農業・手づくり)をテーマに、無添加のハム・ウィンナー等の地域ブランドを開発し、農畜産物の手づくり体験や情操教育の場の提供等に取り組み、地域農業と農村文化及び自然環境とことごとくつながることと消費者の組織化を図ることで、消費者と生産者との交流を通じた地域の活性化に貢献している。	観光振興
225	吉田 総一郎	(社)日本ニュービジネス協議会連合会(JNB)	副会長	・ビジネスを通じた豊富な海外経験と人脈により地域の活性化に取組む。特に89年には長野冬季オリンピック招致委員会常任副実行委員に就任。「ミスター・ナガノ」として世界中を飛び回り招致活動を展開、長野オリンピック招致実現を果す。	産業育成 雇用創出 国際交流
226	吉田 雅紀	㈱あきない総合研究所	代表取締役	地域振興の起爆剤は起業・創業。起業家とその支援者のパートナーとして、起業から成功へと導くことがビジョン。主にスタートアップ時に特化し支援を行う。また国・自治体の起業支援プログラムの企画・運営も行う。大阪市「あきないえーど」、経済産業省「ドリームゲート」等をプロデュース。	産業育成 雇用創出 分野横断的支援
227	吉田 義昭	小岩駅前通り美観商店街(江戸川区)	会長	・江戸川区区内最大の商店街活性化に向け、アーケード整備やカラー塗装等の実施に加え、防災フェア等のイベントも実施。 ・商店街と江戸川区、千葉商科大が覚書を調印し、産学公連携による商店街の新たなモデル像を調査・研究・企画・実施。 ・千葉商科大の協力に基づき文化講座や、同大学生による商店街活性化対策の研究発表会を開催。	商店街振興
228	吉永 茂	吉永公認会計士事務所(熊本県)	所長	・中堅建設会社での勤務経験有り。中小建設会社向けの経営コンサルタント育成活動に注力しており、建設業の経営革新に関する支援・講演実績等多数 ・建設業経営研究所(CML)理事長、国土交通省「建設業経営支援アドバイザー」を務める。	建設産業再生
229	吉野 裕之	(財)ハウジングアンドコミュニティ財団 住まい・まちづくり活動推進協議会	プログラム・オフィサー 運営委員	まちづくり・地域づくりに関わるNPO・市民活動の助成・支援、またこの分野の活動推進のための調査研究に関わりながら、とくに文化論的な視点からまちや地域のあり方を模索している。アートや文学を活かしたまちづくり・地域づくりに強い関心がある。	市民活動・NPO 助成・支援 ソフト アート・文学・地域文化
230	吉原 明香	NPO法人市民セクターよこはま	事務局長	・横浜社協のボランティアセンター職員として高齢者在宅サービス事業に直接携わった経験から、行政施策と現場ニーズのズレを実感し市民の意見を直接反映するため、市内の団体に呼びかけ市社協から独立した市民セクターよこはまを組織。 ・NPO活動のサポートや活動団体との協働による政策提言を実施。	住民参加 協働によるまちづくり
231	米田 雅子	慶應義塾大学理工学部	教授	・建設業の新分野進出支援(農林水産業進出支援など)の第一人者であり、建設産業、国土建設、地域再生の研究、評論、支援活動に活躍 ・NPO法人建築技術支援協会常務理事、経済産業省産業構造審議会地域経済産業分科会臨時委員。2007年1月より内閣府 規制改革会議委員。	建設産業再生 規制改革 農山漁村活性化
232	萬谷 正幸	よろづや観光(株)	代表取締役社長	・「伝統・文化を重視した温泉街づくりのカリスマ」 ・「団体遊興型観光で全国に名を馳せた」温泉観光地から、「個人・時間消費型観光」に対応した地域づくりを図るため、旅館施設の一部開放事業の推進、空き旅館・空き店舗対策事業を同氏自ら率先して着手した。空き店舗対策として開設した同氏自らが運営している「べんがらや」は、地域の活性化事業の礎となっている。また、2003年(平成15年)12月には、「山代温泉新Cコンセプトブック」を作り、「より山代らしい、人によさしい湯の里づくりをめざして」をテーマに、ハード・ソフト整備の課題や今後の方向性を示し、地域の再生・活性化・産業振興に尽力している。	観光振興
233	ロス・フィンドレー	(有)ニセコアドベンチャーセンター	代表取締役	・「通年型アウトドア体験観光のカリスマ」 ・冬のスキーによる観光のみの北海道ニセコ地域に、ラフティングなど夏季体験観光の魅力を加え、国内外から観光客が集まる通年観光の地に変貌させた。また、「日本リバーガイド協会」の設立に当初から参加し、ラフティングの安全性やサービス向上を通じて、ラフティング人口の増加に寄与した。	観光振興
234	若松 進一	夕日のミュージアム	名誉館長	・「真似しない、真似できないアイデアで地域力を作り上げるカリスマ」 ・住民のまちづくりの意識を高めるための組織作り力を入れる一方、夕日をコンセプトにしたまちづくりに従事し、「他の市町村を見習わない。見習ったら規模の大小の勝負になる。オンリーワンなら、自分たちの汗と知恵があればできる。」をモットーに、話題を呼ぶ仕掛けをつくり、地域の活性化に貢献した。	観光振興